

## キリシタン・カトリック村落, 黒崎の土地所有及び戸籍について

野村, 暢清

<https://doi.org/10.15017/2328718>

---

出版情報 : 哲學年報. 29, pp.125-211, 1970-03-25. 九州大学文学部  
バージョン :  
権利関係 :

# キリシタン・カトリック村落， 黒崎の土地所有及び 戸籍について

野 村 暢 清

長崎県外海町黒崎はキリシタン・カトリック村落である。西彼杵郡彼杵半島にあり、長崎側が三重村、逆側が神浦に接している。この両隣りの非キリシタン・カトリック村落、三重、神浦との対比を軸として、黒崎の文化特徴に関する考察を進める。その文化の種々の姿については、既に報告して来たが、本論文に於いては、その土地所有と戸籍の若干の特徴に言及する。

宗教の構成因子、構成部分の相互の関係に関する問題、宗教文化complexの取り扱いに関する問題、innerなるものがより優位なる統合である宗教的統合、Sorokinのlogico meaningful integrationの方向の問題が、ここでも問題点としてかかわっている。

黒崎地域のキリシタン・カトリック村落の土地所有の姿及びそこでの戸籍の姿について、その形態的な側面から若干の観察を試みていく。

## (一)

先づ、黒崎、三重、神浦三地区の土地台帳、及び字図の姿を観察していく。キリシタン・カトリック系文化地域のそれらと、そうでない地域のそれらの間には、はっきりした異なりがみられる。先づその異なりを取り出

表 1

		地目種類	地反	積歩	筆数			地目種類	地反	積歩	筆数
提	与平	畑		2	(1)	"	松次郎	田畑		9	(1)
"	喜助	{畑山	2,	28	(2)	"	直吉	田畑山	3, 0,	0	(22)
"	新作	{田畑山	2, 1,	11	(2)	"	フミ	畑	2, 6,	22	(3)
"	勘兵衛	畑		5	(19)	"	俊雄	田畑山	1,	18	(3)
"	吉五郎	{畑山原	7,	13	(1)	"	良松	田畑山		26	(1)
"	源太郎	{畑	7,	29	(1)	"	キヨ	原	5, 4,	10	(1)
"	亀次郎	{畑山	1,	5	(1)	"	嘉十	{畑山原	1,	17	(32)
"	研一	{畑山	1,	0	(7)	"	高野 常吉	田畑山	3,	0	(1)
"	源次郎	{畑	8,	8	(4)	"	長太郎	畑山	6,	16	(7)
"	リウ	{畑山原	8,	6	(2)	"	隆一	畑山	3,	6	(6)
"	戸蔵	{田畑山	1,	35	(10)	"	聞一	田畑	3,	17	(1)
"	浅次郎	{田畑	1,	16	(4)	"	市太郎	{田畑山林地	3,	14	(1)
"	友吉	{畑山	8,	15	(10)	"	辰五郎	田畑山	6,	17	(3)
"	儀雄	{畑	4,	14	(2)	"	重太郎	田畑	3,	25	(24)
"	ノエ	畑	3,	19	(2)	"	千代子	田畑山	2,	5	(3)
"	ミヨ	畑	6,	14	(9)	"	辰一	畑山	7,	4	(9)
"	太郎	畑	7,	17	(25)	"	此八	畑山	4,	13	(23)
"	吉蔵	畑	7,	17	(6)	"	倉太	畑山	3,	4	(7)
"	繁	畑	2,	28	(3)	"		畑	4,	285	(7)
"	エモ	畑	2,	18	(1)	"		畑		9	(1)
		山		5	(1)	"		山		4	(1)
		原		23	(1)	"		原	6,	6	(7)
			1,	6	(1)	"			3,	2	(1)
			5,	2	(13)	"			2,	12	(3)
			5,	27	(2)	"			1,	8,	25
			2,	4	(1)	"			9,	8	(11)
			2,	21	(4)	"			2,	9,	13
			5,	16	(3)	"			3,	11	(8)
			1,	3	(2)	"			3,	14	(1)
				9	(1)	"			1,	5	(5)
			1,	15	(14)	"			2,	1,	0
			2,	27	(3)	"			1,	4	(3)
			1,	28	(1)	"			2,	7,	24
				28	(4)	"			2,	7,	11
				8	(2)	"					14
			1,	13	(14)	"			1,	10	9
			2,	1	(1)	"			5,	24	(3)
				26	(1)	"			6,	25	(4)
			1,	0	(3)	"			7,	4	(10)
			2,	7,	15	(11)			1,	4	(3)
			3,	7	(3)	"			1,	2	(1)
			1,	18	(3)	"			1,	0,	15
			1,	11	(1)	"				8	(1)

"	梅藏	畑 山 原	8, 17	(5)	"	耕一	田 畑	1, 22	(13)
			4, 13	(11)				2, 3, 6	(16)
"	妙	田 畑	2, 2, 23	(20)	"	公一	田 畑	1, 6, 23	(18)
			4, 11	(2)				4, 3, 17	(11)

していく。

ところで，農業村落の場合，土地所有の在り方が，その文化の全体の在り方を強く規定していくことは，明確な事実であるが，それとともに，その姿がその文化的諸因子の在り方によって強く規定されていることも事実である。土地所有の特徴は，その文化の全体に影響を及ぼしているとともに，また文化全体の在り方の結果をも示すものでもあると考えられる。問題は，このような特徴的な土地所有の形態が，何故ここに存し，ここに維持されて来たかということである。そして，それとキリシタン的なもの，カトリック的なものとのかかわり合いが問題である。

このキリシタン系文化にみられる土地所有の顕著な特徴は，一筆が極度に細かく，それがばらばらに分散して存することである。この姿を先づ土地台帳，及び字図の姿にみ，更に，その細分と分散の姿がキリシタン文化地域とぴったりと重なっている姿をみていく。

黒崎，三重，神浦での在り方を順次みていくが，先づ黒崎での姿を取り扱ってみる。

下黒崎の若干の姓の人々について，その土地所有の姿を名寄帳を中心に取り扱う。<sup>註1</sup>

表1は黒崎に於ける土地所有の細分化を個々人の所有に，焦点を置いて示してみたものである。叙述の便宜の為に，下黒崎郷の若干の姓の人々のみを取り出して記述する。カトリックもカクレも，ともにキリシタンの後であるが，現在カトリックである提姓と，現在カクレである高野姓を事例として取り上げる。種目別に個人所有の全体量をあげ，それが何筆に分かれているのかを示した。一筆の多くが歩単位であることをみることができる。キリシタン的な伝統の中で，子をおろさないことは保たれて来た。この

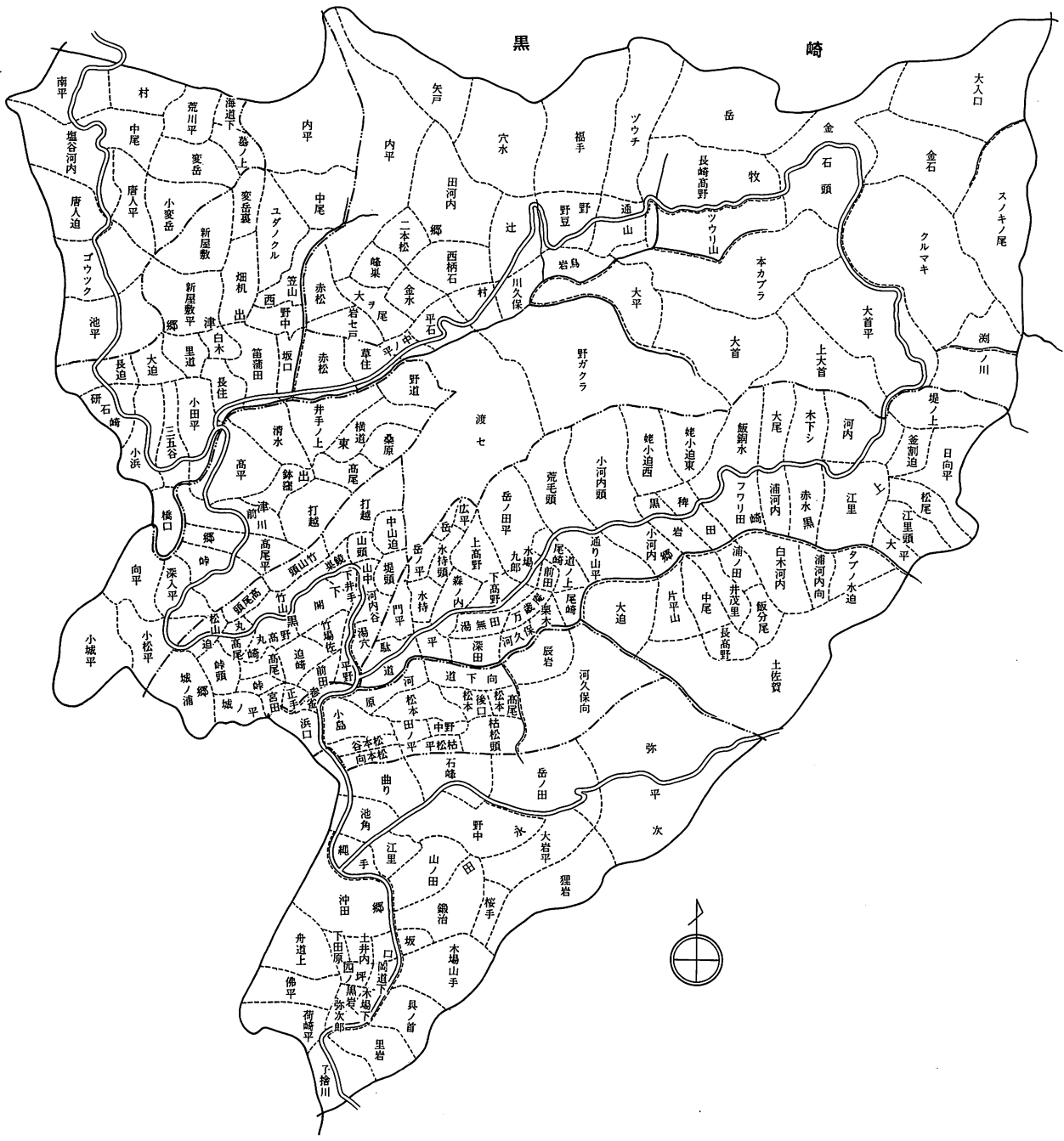
図 1

旧黒崎村小字図

旧黒崎村は，永田郷，上黒崎郷，下黒崎郷，東出津郷，西出津郷，牧野郷よりなる。永田郷は三重村に，西出津郷は神浦に隣接する。

旧黒崎村は東出津と下黒崎の間の岬で出津と黒崎に大別されている。永田，下黒崎，東出津，西出津が海に面し，上黒崎，牧野と高くなっていく。

調査の中心は下黒崎郷に置かれている。



故に子供数は多い。そしてその相続は兄弟均分の形式をとっている。この均分相続の繰り返しのよってこの細分化が生じていると考えられる。この

表 2

氏名	小字名	地目	地量	所有の移転
嘉十	峠頭	田	1歩	提源太郎から
	〃	〃	8歩	提辰蔵から
	〃	〃	8歩	〃
	松山迫	畑	2畝0歩	
	〃	〃	21歩	
	城之浦	〃	1畝12歩	
	峠頭	〃	5歩	提辰次郎から
	城の平	〃	2畝7歩	辻村次郎から
	高尾頭	〃	25歩	提吉五郎から
	松山迫	〃	8歩	宮本安五郎から
	峠頭	〃	2歩	提辰蔵から
	〃	〃	10歩	〃
	〃	〃	2畝8歩	
	〃	〃	1畝0歩	
	〃	〃	27歩	
	松山迫	〃	13歩	
	城の浦	〃	1畝20歩	提辰蔵から
	松山迫	〃	16歩	
	〃	〃	14歩	
	〃	〃	1畝8歩	
	峠頭	〃	10歩	
	〃	〃	8歩	
	〃	〃	11歩	
	山頭	〃	3畝5歩	
	峠頭	〃	23歩	
	〃	〃	7歩	
	松山迫	〃	14歩	
峠頭	山	5歩		
〃	〃	10歩		
〃	〃	8歩		
〃	原	24歩		

表 3 の 1

小 字 名	浦川 勘次	浦川 市治	浦川 重治	浦川 重次郎	浦川 長一	浦川 福蔵	浦川 イエ	浦川 一オモ	浦川 喜代治	浦川 惣吉
松 本 向	畑5, 15 畑 8 畑 8	山 20 山 11 畑 6 畑 10	山 11							
枯 松 頭		畑 6 畑 0		畑3, 03						
野 中					畑1, 09	畑 18				
松本後口				畑2, 09 畑4, 01						
松 本 谷				田 28 田 9 田 12 田 22 田 11 田 15 田 25						
小 嶋	田 22			田1, 06 田1, 14		田 11	畑2, 20	畑1, 10		
浜 口		田 7 田 7		田 26			田 7			
城 の 平	畑1, 25 山1, 26 畑 27	畑 5 畑1, 03 畑 2		畑 22 畑 18			畑1, 10	畑2, 06 畑2, 01 畑 16 畑1, 05 畑 5		
峠	田 11 田 16 田 7 田 21	山 10 山 10						山 10		
峠 頭							山 15 畑 28 山 5 山 12 畑 21 畑2, 22 畑 11 畑 3 畑 4		山1, 19 田 3	
城 の 浦										山 1 山 19 畑 1 畑 2
松 山 迫								畑1, 02		畑1, 04
高 尾 頭	畑 19	畑 10		畑 5				畑1, 07 畑 16		畑 19
丸 高 尾	畑1, 26	畑 26						畑2, 22		畑1, 25 畑1, 05 畑 18



高尾		畑1,02					畑1,10 畑1,16 畑1,27 畑1,19	畑1,21	山 25
宮田							田 16 田1,15 田 11 田 21 田1,15		田2,02
正手	畑1,01 畑 8	畑 4 畑 7 畑 17 田1,13 田 14	田 20	田 29 畑 6 畑 6 畑 6			田 13 田 14 田 13 田 11		田 27 田 13 田 19 田1,28 田1,13 田 17
前田	畑2,16			田 13 畑 19			畑 17 田1,3 畑 18 畑 1,0 田 9	畑3,17 (合併)	
迫				畑1,22			畑2,20	畑1,15	畑 27 畑 18 畑 21 畑 13 畑1,05 畑 21 畑1,15 畑 22
丸高野									山 25 山 7 山 9 山 10 山 15 山 11 山 1
開	畑 16		畑1,25 畑 20 畑1,25 畑 17 畑原 16			畑 6	畑 5	畑 15	畑2,20 畑2,05 畑1,14 畑2,20
竹山頭	畑 28							畑3,07 畑1,26 畑1,19 畑 22	
下井手								山 21	
山頭			山1,03 山 23 畑1,23				畑 25 畑4,21 畑 9		畑1,23
中山迫						畑3,14	畑1,08		畑 11 畑 28
提頭			畑2,21			畑 13			

河内谷				山 5 山 7 畑 26						
竹の場佐		田 2,06		山 23 田 6 山 10 田 13 田 28 田 6 田 5 田 3 田 3 田 6 田 10 田 19 田 3			田 13		田 16 田 4	
湯 穴				畑 2,12 山 3		山 6				
平 野	田 1,10 田 27 田 13									
朱 雀		畑 20 山 7 畑 4,16		畑 3,13 原 7 畑 9	畑 18 畑 9			畑 28		
道 下 向				田 8 田 1,08 田 24						
Total	畑 1,6,09 (12) 田 5,15 (9) 山 1,26	畑 1,2,14 (14) 田 2,11 (4) 田 2,18		田 2,6,20 (15) 畑 1,1,10 (25) 田 2,14	畑 5,05 (8) 畑 1,12 (2) 畑 3,14		畑 1,3,11 (12) 田 2,0,24 (12) 6	畑 2,3,15 (18) 田 25 (2) 20	畑 2,1,03 (14)	畑 2,6,07 (22) 田 8,22 (10) 畑 4,27

ことは後の詳細な比較観察によって実証される。ところでこの両隣の村落、三重及び神浦の中心部は、非キリシタン・カトリック系の人々であり、このような土地所有の細分化の形を取っていない。そこでの相続の様式は長子相続である。なお、三重から黒崎の永田に江戸末期に入りこんでいる真宗のものが、孤立して長子相続の形をとっていることも興味深い。

更に、黒崎の土地所有が細かで、かつ分散的であることについて表2の提嘉十の場合を事例として観察を進めてみる。先づ黒崎の 小字図をあげる。図1である。嘉十の所有土地は、これらの小字の諸地域に分散している。

非常に細かな土地が諸地域諸小字に分散している姿がみられる。

このような形の観察を，更に下黒崎のカクレの浦川姓（表3の1）とカトリックの提姓（表3の2）について試みる。

第一の浦川姓は比較的豊かな方である。

これらの事例の中に黒崎に於ける土地所有の姿の概況が捉えられる。一筆の細かな姿と，それが諸小字即ち諸地域に分散している姿がみられる。黒崎地域は，この細分化の顕著なことで有名な地域であるといわれている。表3でみると，カクレの浦川姓の方が，カトリックの提姓よりも分布も広範囲にわたり，下黒崎の中心地域を所有している。倍近くの小字に比較的濃い分布をもち，田の所有も多い。これは marginal なものがカトリックに動いた姿を示している。

ところで，この細分化と分散の姿は黒崎の全域に及んでいるようである。この傾向は黒崎のみでなく，ここキリシタン・カトリック文化圏全体に，即ち三重に出ばった檜山地域，神浦に出ばった大野地域にもみられる。

そこで，次に，三重本村地域と，枝部落といわれる檜山地域との比較をなしてみる。三重本村地域（非キリシタン地域）の sample としての三重郷中尾及び清水と，東檜山（佐賀領）の高嶽平，及び西檜山（大村領）の堂の本，及び三重田ホゲイウ，石町の土地台帳の姿を比較してみる。

この場合に，各小字の字図を単位地域として取り上げ，統計的な形で，その地の一筆の広さについての統計的平均値をだし，これを比較する。表4は各字図内の在り方を示している。なおその場合に，各一筆を，—7（7畝以上），6.29-6（6畝29歩から6畝まで），5.29-5，4.29-4，3.29-3，2.29-2，1.29-1，29-20（29歩から20歩まで），19-10（19歩から10歩まで），9-6，5-1の枠で整理した。さらに，これを数的に処理する為に，便宜的にはあるが，—7（7畝以上）に数値7を，6.29-6に6を，5.29-5に5を，4.29-4に4を，3.29-3に3を，2.29-2に2を，1.29-1に1を，.29（29歩）以下に0を与える。このような形の数値化にもとづいてその平均値を比較する。29以下は数値としては0であるが，Nには含まれることとなる。





竹山頭			畑 23 山 7 畑 28	山 8	畑 3, 15 畑 2, 12				
打越								原 8	
鏡巢							畑 2, 01		
山中									
山頭		山 5		山 10	畑 2, 06				
竹の湯			田 14					山 16	
佐								山 6	
平野			田 11	田 21 山 8 田 2, 22					
松本向	山 27 山 5 畑 3, 20 山 1, 12 山 16 畑 201								
松本	畑 10 畑 4 畑 1, 01 畑 29								
田の平			田 1, 01						
松本谷			田 16 田 13 田 9 田 2, 00	田 25					
小嶋			田 10 田 1, 03						
城の平				畑 10 畑 17 畑 15 畑 4 畑 1, 22 畑 1, 01 畑 15 畑 1, 04 畑 1, 09 畑 20	畑 8 畑 1, 01 畑 16 畑 1, 00	畑 29		畑 14 畑 15	

表4の1にみられる如く，三重郷中尾の mean は畑，2.32，田，3.54である。29歩以下のものは畑で16%，田で0%である。5歩以下のものは畑で5%にすぎない。三重郷清水の場合も，畑の mean 2.66，.29(29歩)以下のもの25%，9歩以下のもの0である。山の場合はNが少ないが，meanは2.75である。表4の2にみられる。これが三重本村での非キリシタン・カトリック系地域の姿である。

これに対して，キリシタン・カトリック系文化地域東樫山の高嶽平（佐

		畑 28								
		畑1, 14								
				畑3, 05						
		畑2, 27								

賀領) の場合 mean は畑で 1.08, 29 歩以下は 44%, 9 歩以下が 4% である。山は <sup>註2</sup> mean 0.12, 29 歩以下が 92%, 9 歩以下でも 55% である。表 4 の 3 である。大村領西樫山堂の本の場合, mean 1.07, 29 歩以下が 44%, 9 歩以下が 5% である。樫山には田はない。表 4 の 4 にみられる。三重田の場合も, 所有者は樫山のものが多いといわれているが, ホゲイウで田 mean 1.74, 畑 mean 0.4 である。田は 29 歩以下が 27%, 5 歩以下 4%, 畑 29 歩以下 80% である。表 4 の 5 にみられる。石町では mean 1.37, 29

表4の1 三重郷字中尾（非キリシタン・カトリック地域）

	畑 m2. 32	田 m3. 54	山 m0. 25
— 7 畑 畑 畑 田 畑 田 ○ ○ ○ ○ ○ ○	4	3	
6. 29— 6 田 田 ○ ○		2	
5. 29— 5 畑 畑 畑 畑 畑 畑 ○ ○ ○ ○ ○ ○	6		
4. 29— 4 畑 畑 畑 畑 畑 畑 ○ ○ ○ ○ ○ ○	6		
3. 29— 3 畑 畑 畑 畑 田 畑 畑 畑 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	7	1	
2. 29— 2 畑 畑 畑 畑 畑 畑 田 畑 畑 畑 田 田 畑 畑 畑 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	13	3	
1. 29— 1 畑 畑 畑 畑 田 山 田 田 田 畑 畑 畑 畑 畑 畑 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	11	4	1
. 29— . 20 畑 畑 畑 畑 畑 畑 ○ ○ ○ ○ ○ ○	6		
. 19— . 10 山 ○	3	2	1
. 9— . 6			0 %
. 5— . 1 山 山 畑 畑 畑 原 野 ○ ○ ○ ○ ○ ○	5(%)		1原

表4の2 三重郷字清水（非キリシタン・カトリック地域）

	畑 m2. 66	山 m2. 75	原
— 7 山 畑 ○ ○	1	1	
6. 29— 6 畑 ○	1		
5. 29— 5 畑 ○	1		
4. 29— 4 畑 ○	1		
3. 29— 3 畑 山 ○ ○	1	1	
2. 29— 2 畑 畑 畑 ○ ○ ○	3		
1. 29— 1 山 畑 ○ ○	1	1	
. 29— . 20 畑 ○	1		
. 19— . 10 畑 畑 原 ○ ○ ○	2		1
. 9— . 6			1
. 5— . 1			



表4の3 三重高嶽平（東樫山）（キリシタンカトリック地域）

畑 N76 mean 1.08	山林 N100 mean 0.12	原
— 7		
6.29— 6 ○	1	
5.29— 5 ○	1	
4.29— 4 ○○○○○	5	
3.29— 3 ○○○	3	
2.29— 2 ○○○○○○○○○○○	10 ○○○○	4
1.29— 1 ○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○	22 ○○○○	4 ○墓 1
.29—.20 ○○○○○○○○○○○○ ○○○○	14 ○○○○○○○○○○	9
.19—.10 ○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○	17 ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○ ○○○	30 ○○○ 3
.9—.6 ○○	2 ○○○○○○○○○○ ○○	20
.5—.1 ○	1 ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○	33 ○ 1
	(1%)	(33%)

44% (畑) / 92% (山林) / 53% (原)

表4の4 三重西樫山（堂の本）（キリシタン・カトリック地域）

畑 N129 mean 1.07	山	溜池
— 7 ○○○○	4	
6.29— 6		
5.29— 5 ○○○	3	
4.29— 4		
3.29— 3 ○○○○○○○○	8	
2.29— 2 ○○○○○○○○○○○○○	14	
1.29— 1 ○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○	43	○ 1
.29—.20 ○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○	21	
.19—.10 ○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○	29	
.9—.6 ○○○○○○○○	7	
.5—.1	○○○	3

44% (畑) / 5% (山)

表4の5 三重三重田ホゲィウ（キリシタン・カトリック地域）

田	N94 mean 1.74	畑 N5 mean 0.4		
— 7 ○	1			
6.29— 6 ○○○○	4			
5.29— 5 ○○○	3			
4.29— 4 ○○○○○	5			
3.29— 3 ○○○○○○ {4人共有} ○○○○○○○	13			
2.29— 2 ○○○○○○○○○○○○ ○○○○○	16 ○		1	
1.29— 1 ○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○	27			○原 1
.29—.20 ○○○○○○○○○○○○ ○○○	14 ○		1	
.19—.10 ○○○○○○○○	27 } %	7 ○○	80 } %	2 宅地 ○ {3人共有} 1
.9—. 6		○	1	
.5—. 1 ○○○○	4 } (4%)		20 } %	○原 1

表4の6 三重三重田石町（キリシタン・カトリック地域）

田	N87 mean 1.37		
— 7 ○○○○○	5		
6.29— 6 ○○	2		
5.29— 5			
4.29— 4 ○○○○	4		
3.29— 3 ○○○○ {3人共有} ○○○	7		
2.29— 2 ○○○○○○○○	8		
1.29— 1 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○	29		
.29—.20 ○○○○○○○○○○	9		
.19—.10 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	18 } 37 } %		○原 1
.9—. 6 ○○○○	6 } %	3	
.5—. 1 ○○	2 } (2%)		

表4の7 神浦下道徳白石平（非キリシタン・カトリック地域）

田	N55 mean 1.81	畑 N20 mean 2.45	原
— 7 ○○○	3		
6.29— 6 ○○	2		
5.29— 5 ○○○	3		
4.29— 4 ○○	2		
3.29— 3 ○○○	3	○○○○	4
2.29— 2 ○○○○○○○○	8(14%)	○○○○○○○○	7
1.29— 1 ○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○	19(34%)	○○○○	4
.29—.20 ○○○○○○○○	27% { 6(11%) 3 11 { 4 % { 2 (4%)		○ 1
.19—.10 ○○○○		○ ○	2 ○ 1
. 9—. 6 ○○○○			
. 5—. 1 ○○			○ 1

表4の8 神浦上道徳川頭（非キリシタン・カトリック地域）

畑	N58 mean 1.98	
— 7 ○○	2	
6.29— 6 ○○○○	4	
5.29— 5 ○○	2	
4.29— 4 ○	1	
3.29— 3 ○○○○○○	7	
2.29— 2 ○○○○○○○○○○○○○○○	13	
1.29— 1 ○○○○○○○○○○○○○○○○○	16	
.29—.20 ○○○○○○○○	22% { 8 3 1 3% { 1 2% 1	
.19—.10 ○○○		
. 9—. 6 ○		
. 5—. 1 ○		

表4の9 神浦上道徳東神の上 (非キリシタン・カトリック地域)

畑	N74 mean 1.26	
— 7 ○○	2	○田
6.29— 6 ○○	2	
5.29— 5 ○○	2	
4.29— 4 ○○○	3	
3.29— 3 ○○○○○	5	
2.29— 2 ○○○○○○○	7	○宅
1.29— 1 ○○○○○○○○○○○○○○○○○	16	○宅○宅
.29—.20 ○○○○○○○	7	○宅○田
.19—.10 ○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○	19	50 % { 14 % { 6 % { 5 (7%)
.9—.6 ○○○○○○	6	
.5—.1 ○○○○○	5 (7%)	

表4の10 神浦上大野草木田 (キリシタン・カトリック地域)

田	N94 mean 0.16	
— 7		
6.29— 6		
5.29— 5 ○	1	
4.29— 4		
3.29— 3 ○	1	
2.29— 2 ○	1	
1.29— 1 ○○○○○	5	
.29—.20 ○○○○	4	92 % { 62 % { 41 % { 18 % { 1-4 % { 2-5 % { 3-13
.19—.10 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○	23	
.9—.9 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 5 4 4 1 2 1 1 4 3 3 3 4 3 5 3 3 4 5 3 3 3 3 ○○ 3 4 4 5 2 3 2 2 5 1 5 2 4 4 5 3 4 5 4	18	
.5—.1 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○	44 (44%)	

表4の11 神浦下大野宮ノ下（クリシタン・カトリック地域）

田	N86 mean 0.58	畑 N14 mean 0.21	原	宅
— 7 ○		1		
6.29— 6				
5.29— 5			山	
4.29— 4			○	1
3.29— 3 ○○		2	村宅地	
2.29— 2 ○○○○○○○○○○○			○	1
	{3人共有}	12		
1.29— 1 ○○○○○○○○○○○		13	3	原山山郡村宅地 4
	{2人共有}○	○○○	○○○○	
.29— 20 ○○○○○○○○○○		9	3	
.19— 10 ○○○○○○○○○○○		26	6	山 1
		○○○○○○○	○	
.9— 6 ○○○○○○○○○○○	68%	28	1	原宅 2
		{11}○	○○	
.5— 1 ○○○○○○○○○○○		{12}○	1	原山 {3人} 2
		(14%)	○○	{共有}

表4の12 神浦下大野岳田（クリシタン・カトリック地域）

畑	N23 mean 0.87	田	N98 mean 0.30	原
— 7				
6.29— 6				
5.29— 5		○		1
4.29— 4 ○		1	○○	2
3.29— 3				
2.29— 2 ○○○○○○		5	○○○○○	4
1.29— 1 ○○○○○○		6	○○○○○○○○○○	9
.29— 20 ○○○○○○		5	○○○○ {2人共有} ○○○○	7
			○○○○○○○○○○○○○○○○○○	
.19— 10 ○○○○○○		6	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	37
			○○○○○○○	
	48%		○○○○○○○○○○○○○○○○○○	84
.9— 6			○○○○○○○○○○○○○○○○○○	39
			○○○○○○○	22
.5— 1			○○○○○○○○○○○○○○○○○○	16
			○	1
			(16%)	

歩以下37%，9歩以下6%である。表4の6にみられる。三重田は檜山と比較すると若干大きい。檜山、三重田のカトリック系文化地域は、三重本村の非キリシタン・カトリック系地域と異なって、細分化の特殊傾向を示していることがみられる。なお interirew でも、相続の様式が三重本村の長子相続と異なって均分であることが述べられている。

ところで、これと全く同様のことが反対側の神浦側でもみられる。ここでも非キリシタン・カトリック地域の sample として取られた上、下道徳では一筆は比較的大きい。神浦で上道徳は特に貧しい地域といわれている。下道徳白石平で、田の mean は1.81、畑の mean は2.45、田で29歩以下は27%、畑で10%、9歩以下は田で4%、畑で0%である。表4の7にみられる。上道徳の川頭では、mean 1.98、29歩以下28%、9歩以下3%である。表4の8にみられる。上道徳東神の上の場合、畑が殆んどであるが、mean 1.26、29歩以下50%、9歩以下14%である。表4の9にみられる。

これに対して、キリシタン・カトリック系文化地域、大野の場合、一筆ははるかに細かい。上大野草木田の場合、田の mean は0.16であり、29歩以下のものが92%、9歩以下でも62%、5歩以下が44%を占める。表4の10である。下大野の宮の下の場合、田の mean 0.58、29歩以下が68%、9歩以下でも28%である。畑の mean は0.21、29歩以下が79%である。表4の11にみられる。下大野岳田では畑の mean が0.87、田の mean が0.30である。畑では29歩以下が48%、田では84%である。田では9歩以下でも39%である。以上にみられる如く、キリシタン・カトリック系文化地域の細分化は、非キリシタン・カトリック地域とは、はっきりと異なっている。キリシタン・カトリック系文化地域と土地所有の細分化の特徴の明確な重なりがみられる。

## (二)

次に、更に、キリシタン・カトリック文化地域と非キリシタン・カトリック文化地域の土地所有の姿の異なりを、字図の対比を通して観察していく。

ここでは事例として、神浦の場合のみを取り上げてみる。神浦の東半分にある大野と、西半分にある道徳との字図の対比を試みる。キリシタン・カトリック系文化地域と非キリシタン・カトリック系文化地域の土地所有の異なりを、その字図の中に観察するのである。

字図は土地の所在を示すのみで、字図に於ける土地の大きさは、その実際の広さには比例しはしない。そこでこの字図にその土地の広さと、その所有者名(姓は全部を、名は最初の一文字のみを記した)を記入した。非キリシタン・カトリック系文化地域の sample としては、下道徳の白石平及び白石谷の道上、上道徳の東神の上、キリシタン・カトリック系文化地域の sample としては上大野の草木田、及び下大野の岳田を用いた。この両者は、外海町役場のある市街地を中心として、東西両側にあり、海からの距離も大体等しいところである。次に各字図毎に観察していくが、非カトリック系文化地域としての道徳の姿からはじめる。

## (イ) 下道徳白石平に於ける様態

神浦白石平に於ける様態は図2のようである。非キリシタン・カトリック地域である。ここでは、日本農村の土地所有の一般的な姿がみられる。一般的とはいうものの内海(大村湾側の)と対比しても所有農地は小さい。大村藩の書面上の本百姓の所有農地は八反であったという。この辺では考えられない姿である。しかしこの神浦の東半分の大野から黒崎を経て三重檜山に広がるキリシタン・カトリック文化地域の土地所有と比較すると、その姿ははっきりと異なっている。その一筆の平均は大きい。

次に図2の字図の観察をなしていったみる。キリシタン地域に於けるそれとの対比を中心として考えていく。その若干の特徴をみる。

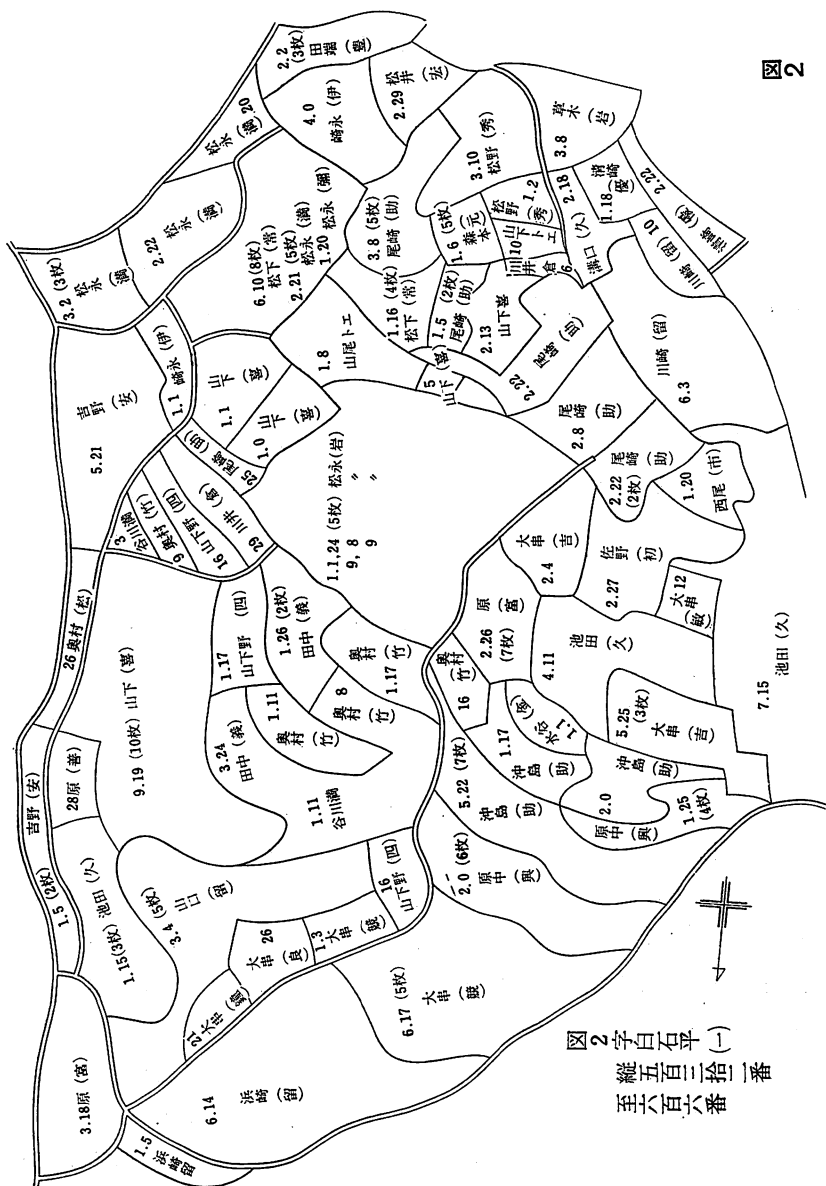


図 2



①図2の字図は，この図の中に同姓のものが少い形を示している．同姓のものが一名しかない形のものが多い．長子相続の形と関係していると考えられる．

②所有農地の分散度は比較的少く，かたまって所有されている傾向がみられる．地続きの形で7畝以上の広さをもつものをあげてみる．このような形のはキリシタン地域には殆んどない．沖島(助) 2.0 (2畝0歩)，(4枚) 5.22 (5畝22歩) (7枚)，1.17 (1畝17歩)；大串(競) 6.17 (5枚)，1.3；尾崎(助) 3.8 (5枚)，1.5 (2枚)，2.22，2.8，2.22 (2枚)；浜崎留6.14，1.5；などがそれである．この中，尾崎は他の諸地域にもみられ，全体的に，東神の上，白石谷の道上等にも広がっている．

この外，比較的大きなものとしては，松永(岩) 1,1,24(1反1畝24歩)，9.8，9；松永(満) 3.2，2.22；松野(秀) 3.10，1.2；奥村(竹) 1.11，1.17，8，16；山下(喜) 9.19；吉野(安) 5.21などがある．これらの場合にもその姿は分散的でなく，集中的形態を示している．なお，奥村(竹)は全地域(大野にまで)に広がった姿を示している．

③地続きではないが，比較的接近して大きくもっているものとして，原中(与) 2.0，1.25，田中(義) 3.24，1.26；大串(吉) 5.25，2.4がある．

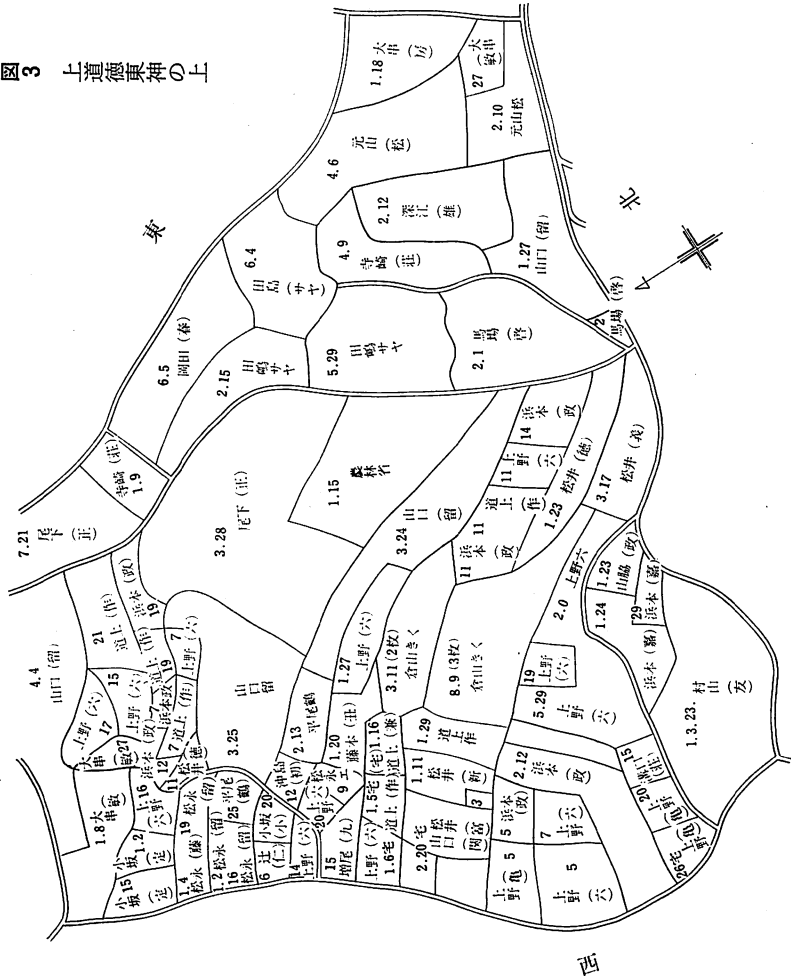
④同姓のものが隣接土地をもっている姿は，大串(競)と大串(良)の場合，と松永(満)と松永(弥)の場合にのみみられる．この場合，大串(競)が6.17，1.3，21に対して，大串(良)26であり，その所有は均等ではない姿を示している．松永(満)の場合も3.2，2.22に対し，松永(弥)2.21，1.20，20である．

細分化され，分散したキリシタン系文化地域の土地所有の姿とは異なる形であり，農耕の上になつ生活，農耕に便宜な，普通の形を示している．

#### (ロ) 上道徳の東神の上の土地所有

この地域の土地所有の姿を図3が示している．図3の観察を進めていく．この地域で，上道徳は特に貧しいところといわれている．この土地

図3 上道徳菓神の上



の一筆は小さい。とはいえ、これを(ニ)のキリシタン・カトリック文化地域のそれと比較する場合には、はっきりとより大きい。その平均値については先に述べたが、地つづきの所有農地が7畝をこえるものを先づ観察していってみる。

①地続の所有農地7畝をこえるもの。田嶋(サヤ)6.4, 5.29, 2.15; 山口(留)3.25, 3.24; 倉山(きく)3.11(2枚)8, 9, (3枚); 上野(六)5.29, 2.0, 19; 尾下(正)7.21, 3.28; などがそうである。その中、上野(六)は東神の上全体に分布しているが、他のものは集中的な形で存している。7畝には達しないが大きなものとしては、元山(松)4.6, 2.10がある。比較的近くに大きな土地をもつものとしては山口(留)4.4, 3.25がある。これらの分布の姿は分散的傾向をもっていない。

②これらほど大きくないが同一人が地つづきの形で土地をもっているものとしては、道上(作)21, 19, 7; 小坂(定)1.2, 15; 大串(敏)1.8, 27; 浜本(政)2.12, 5; がある。

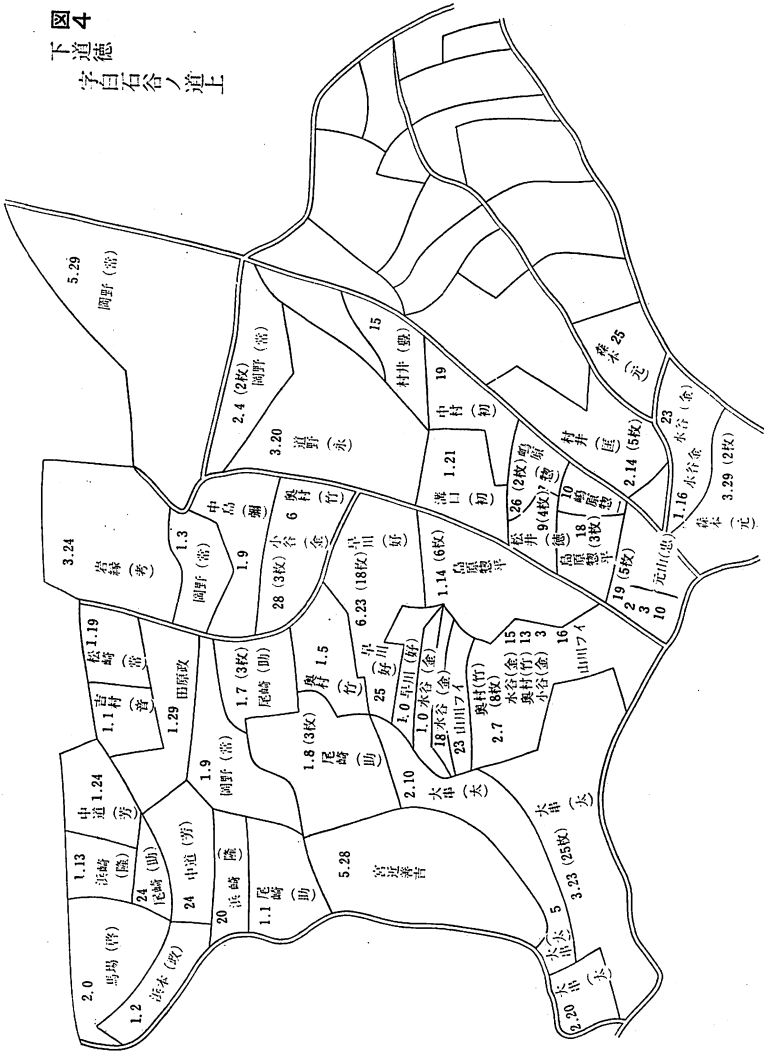
③同姓の隣接所有は若干みられる。大串(房)1.18, 大串(敏)27; 上野(六)5, 7と上野(亀)5; 松永(藤)1.4と松永(留)19, 12, 16, 松井(新)と松井(富)の如きである。松井(富)の場合は宅地である。上野(六)の場合は非常に多くのものを周辺にもっており、上野(亀)と均等ではない。大串(房)と(敏)の場合も一方が大きく、一方は小さい。全体として隣接地域を同姓のものをもつ傾向は、ここでは弱い。

#### (ハ) 下道徳の白石谷の道上

この地域の土地所有の姿を図4が示している。次の如き諸特徴がみられる。(イ)の場合と同様である。

①地続きで7畝以上をもつものとしては、早川(好)6.23(18枚), 25, 10; 岡野(常)5.29, 2.4, 1.3, 1.9; 大串(太)3.23(25枚), 2.20, 5, 2, 10; がある。これらのどの場合も、全部の所有地が地つづきであり、その姓の所有地もこれらだけである。

図4  
下道徳  
字白石谷ノ道上



②地つづきの所有農地をもつものとしては，先に白石平でもみられた尾崎（助）1.7（3枚），1.8（3枚），1.1；島原（惣）1.14，18；水谷（金）1.16，23，1.0，18；がある．宮近（善）の5.28も大きい．尾崎（助）奥村（竹）は白石平にも分布している．

③同姓の隣接所有は，浜本（政）1.2と浜本（隆）20（近くに浜本（隆）1.2がある）を除いて全くない．奥村，尾崎の如きケースを除いて，所有農地の非分散的姿が強く現われている．

## （二）上大野の草木田

キリシタン・カトリック系文化地域としての大野に関する事例として，この草木田及び岳田を取り扱う．非キリシタン地域である前三者と異なつて，キリシタン・カトリック系文化地域のそれは一筆が極度に細かく，またその土地が極度に分散的である．一筆の細かさは，その最大の特徴である．図5がこの地域の姿を示している．次の如き特徴がみられる．

①地続きで7畝以上のものはない．岳本（久）の12，11，1.23，3，9，17；合計3.15が最も大きいものである．それは少し離れての同人所有の3.19をもつ．これを合わせると7畝となる．集合的方向の弱さを，分散的方向の強さを示している．

②同一人が地つづきの土地を所有しているのは，岳本以外には，吉川18，吉川18；吉川4，吉川5；木村（元）8，5，11，4；片平（吉）15，21；小辻（条）3，1；木村駒3，3；川口11，11である．これらの合計も極度に細かい．これらは，一度均分されたものが，所有の移動にもとづいて同一人の所有となったと考えられる．地つづきの形の所有土地が一畝を越えるものは岳本，吉川のケースのみである．地つづきの形，集合的形態は，この土地所有の特徴ではない．

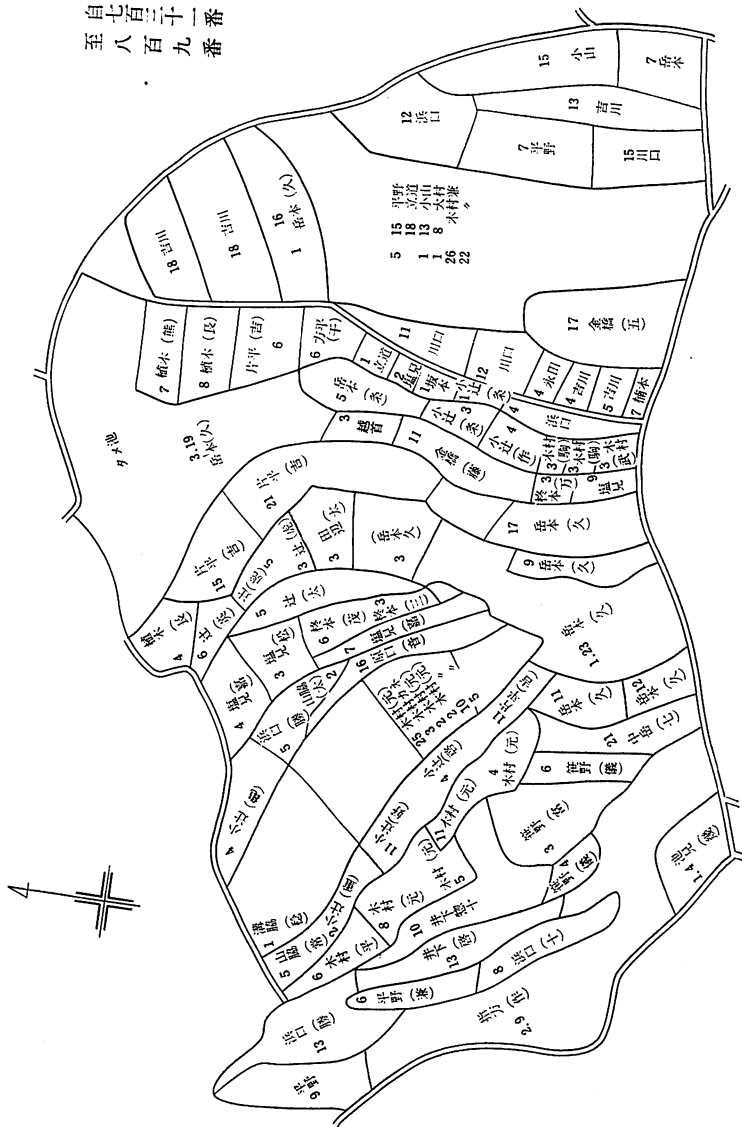
③同姓隣接の形は，ここに特徴的な形である．しかもその所有は均等の形をとっている．植木（熊）7，植木（長）8；片平（吉）6，片平（千）6，辻（英）6，辻（虎）5，3，辻（太）5；塩見（嘉）4，塩見（松）3，塩見

第5図 上大野郷之内第拾四番

字草木田

自七百三十二番

至八百九番



(嘉) 7; 杵本 (茂) 6, 杵本 (三) 3; 小辻 (好) 11, 小辻 (啓) 4, 小辻 (重) 2; 笹野 (儀) 6, 4, 笹野 (富) 3; 井下 (惣) 10, 井下 (啓) 13; 木村 (武) 3, 木村 (駒) 3, 木村 (駒) 3; 小辻 (佐) 4, 小辻 (条) 3, 1と多い。このような同姓隣接は非キリシタン地域ではみられなかったものであるが，ここでは普通の形である。それは極度に細かく，また均等である。

④10歩以下の一筆の多い姿がみられ，同一人の土地が大きくかたまっているものはない。均分につぐ均分の結果という姿を示している。

#### (ホ) 下大野の岳田の様態

ここでも土地台帳の一筆は細かく，かつそれは分散的である。図6がこの地域の姿を示している。

①地つづきで7畝以上の農地はない。中岳 (七) 2.15, 9, 16, 17, 14; 合計4, 11; 岳本 (久) 5.0, 19; 合計5, 19; 井下 (末) 1.7, 8, 7, 11, 5, 15, 14, 5, 4, 26; 合計4, 12; 広田 (岡) 4.18, 1.3; 合計5, 21; の如きがこれに近いものである。

②同一人が地つづきの土地をもっているものとしては，この外に，中岳 (吉) 2.4, 29; 指方 (佐) 1, 1, 22の2ケースがみられるにすぎない。その集的方向は弱く，分散的傾向がはげしい。

③この分散的傾向を示す事例として，土本及び道上 (音) のケースを取り上げてみたのが図7である。ここの農地の一筆の小ささと，その分散的姿がみられる。道上 (音) の場合，3, 3, 6, 6, 4が5ヶ所に分散点在し合計22歩である。土本の場合も同様である。分散の姿を示している。この場合は均分の形態がより明確にみられる。土本 (又) 土本 (作) は，多くのところで (又) 15 (作) 5; (又) 3 (作) 8; (又) 5 (作) 6の如き形で，一筆を更にたがいに分っている。

④先の土本の場合もそうであるが，同姓隣接所有の場合が多い。草木田の場合と同様である。池見 (恵) 14, 池見 (幾) 16; 土本 (好) 22, 土本

図6 下大野郷

岳田

從十六百貳拾六番

至十七百三拾八番

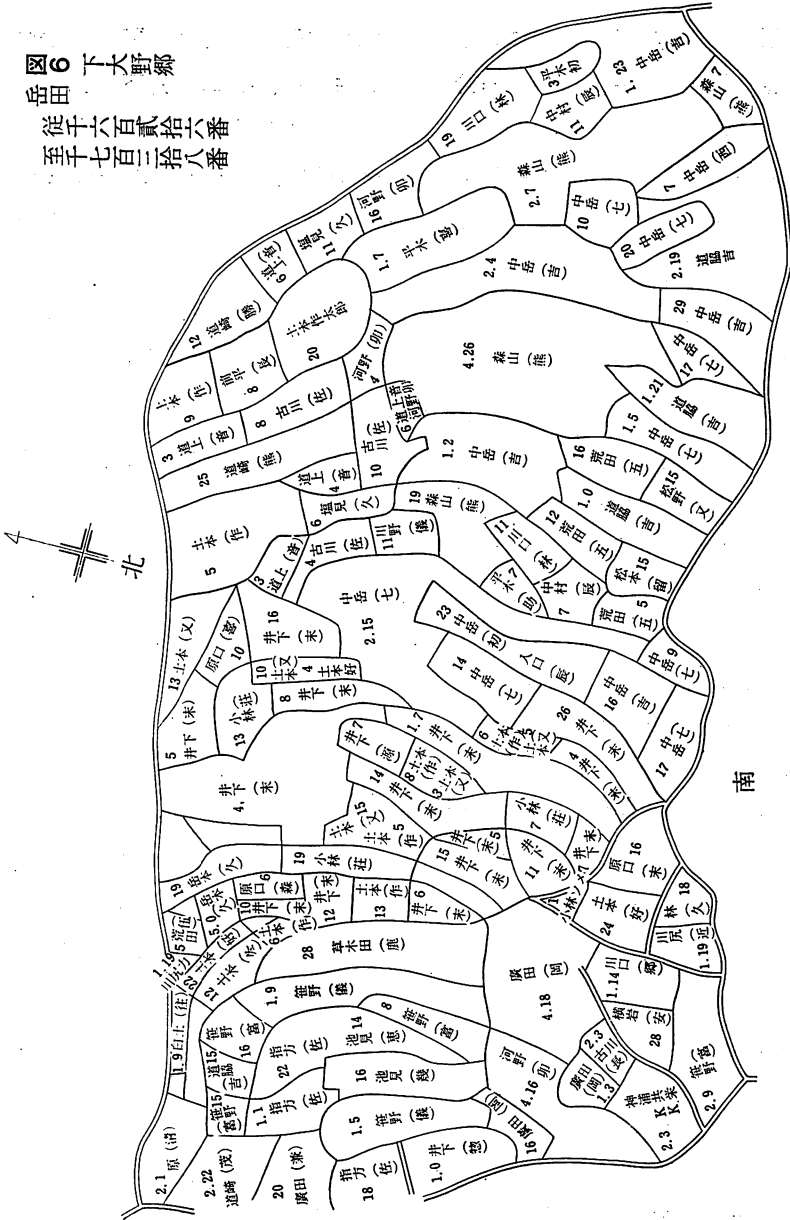
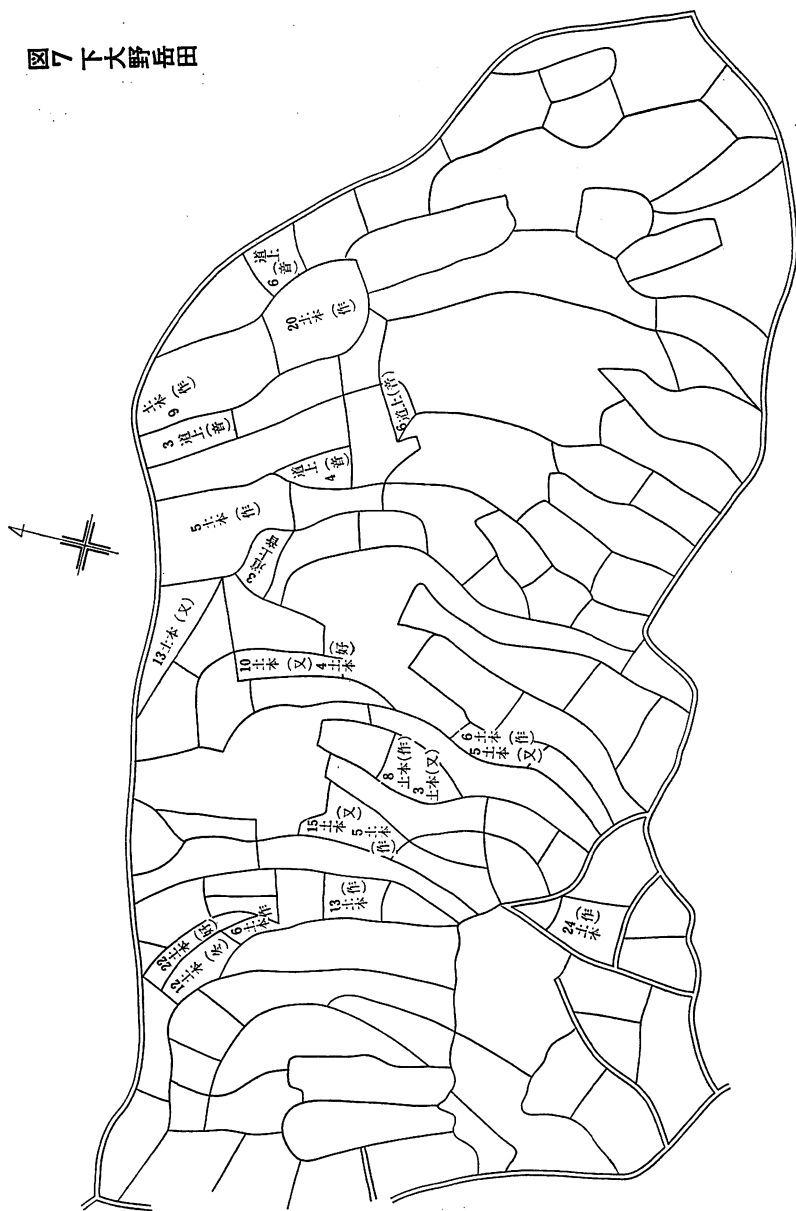




図7 下大野岳田



(冬) 12, 土本 (作) 6; 笹野 (富) 16, 8, 笹野 (儀) 1.9; 中岳 (吉) 16, 中岳 (七) 17; 中岳 (七) 9, 中岳 (七) 2.15, 14, 中岳 (初) 23; 中岳 (七) 17, 中岳 (吉) 29, 中岳 (吉) 2.4, 中岳 (七) 20, 10, 中岳 (西) 7; の如きがそれである。

⑤個人所有地続きが少なく，同姓隣接所有が比較的多い。このようなこま切れの土地の上に立ってどのような農業が可能であろうか。

### (三)

以上の研究結果は，キリシタン・カトリック系文化地域での土地所有が極度に細分化されており，またそれらの個人の所有土地が広くばらばらに分散していることを示している。そしてこのような土地所有の在り方は，この地域のキリシタン・カトリック系文化地域にのみ存在し，これをこえた地域ではみられない。即ち，三重，神浦，両隣村の本村地域，非キリシタン・カトリック地域では，このような細分化や分散的傾向がみられないが，キリシタン・カトリック地域内では，佐賀，大村の藩領の異なりをこえて，この傾向が，同じく存しているということである。

このような土地の細分化と分散の傾向は相続の様式に主として，もとづいている。ここのキリシタン・カトリック系文化の中での相続は均分であり，両隣りの仏教村落の場合には長子相続である。この両者の関係の姿は，字図に於ける，キリシタン・カトリック地域の同姓隣接所有の姿，その個人の所有土地の分散の姿，非キリシタン・カトリック地域での比較的大きな地つづきの個人の土地所有，などにもみられうる。このような均分的傾向は，キリシタン・カトリック系文化の中で，黒島，その他五島の諸地域，平戸の田平などでもみられることは内藤莞爾教授の諸調査にもみられるところである。

キリシタン・カトリック系文化地域では子供をおろさない。このことは守られて来ている。そこで子供数は多い。そしてその相続は均分である。

表5 上黒崎の土地所有の姿

名	田		畑		原		山		雑	
	筆数	合計	筆数	合計	筆数	合計	筆数	合計	筆数	合計
黒崎 梅治			2	6,22	2	1,04				
黒崎仙太郎	13	3,9,04	21	4,0,25	8	9,16	5	2,24		
黒崎伊太郎			5	7,19			1	2		
黒崎 吉蔵			6	6,11						
黒崎 野吉	5	2,1,24	20	4,2,04	6	8,21	3	27		
黒崎 嘉蔵	6	1,8,16			7	5,12				
黒崎 フサ			17	3,3,18						
黒崎 久雄	8	1,7,17	8	2,6,01	1	5	16	2,3,27		
黒崎 秋枝	13	3,5,24	34	9,3,02	4	5,00	8	8,24		
黒崎 伊十										
黒崎 平十			1	26						
黒崎 新十						1,00				
黒石 熊蔵	7	2,5,13	9	4,6,14	1	11	4	1,1,27		
黒石 能作					1	1,15				
黒石 貞雄	15	2,3,27	18	3,6,08	1	5,26	2	1,00		
黒川 嘉十			1	5	6	4,28	6	2,00		
黒川 寅吉	2	2,25	16	3,7,15	9		1	10		
楠本 戈太			1	10			1	20		
森本増太郎			5	1,4,18	1	20				
森本 梅作							1	4		
森本 徳三	1	2,04	7	1,5,07			1	1,00		
森内 ハツ			1	1,09						
本木定太郎	7	3,1,22	16	6,8,29	13	7,02	3	2,05		
本木庄次郎	8	3,8,09	20	7,1,21	3	6,21	5	2,11		
本木長次郎	11	2,8,06	8	2,5,26	1	12	1	7		
本木伴次郎	6	1,2,19	5	8,10	4	1,22	2	11		
木本 茂作			2	1,09						
木本満右エ門	12	2,0,08	13	4,3,21	7	3,12	4	2,07		
森本 宮治			8	1,4,21						
上野 要度	4	2,2,10	2	2,17	1	6	1	25		
上野 広作	6	1,4,27			1	15				
上野三次郎	1	3	4	2,29	1	15				
上野 寅雄	2	5,13	17	6,5,18	6	7,12				

上野伊惣治			1	5, 13			1	8	
上野禎次郎	16	3, 4, 03	33	6, 0, 03	1	2	9	5, 00	
上野 亀一	18	3, 8, 09	28	6, 8, 03	5	7, 25	5	8, 13	
上野 広作	2	2, 19	9	3, 6, 07	2	0, 23	3	5, 08	
上野 嘉十	4	1, 0, 18							2, 17
上野 末松			1	2, 21			1	6, 17	
上野増太郎	1	23					1	0, 01	
上野 春好									1, 024
上野 清市			1	8, 10					
上野 知一			2	4, 18			1	1, 28	
上野安五郎					7	1, 1, 20	1	9, 17	
上野定右門							1	0, 07	
上野又右門							1	0, 10	
上野 市蔵	1	3, 21	2	8, 07	1	0, 25			
上野 イマ			4	4, 25					
上野新太郎			1	10					
上野 公一			1	24	1	15			
上野 平松			4	2, 0, 13					
上野 寅八	16	4, 5, 15	12	4, 0, 08	3	0, 14	3	3, 28	
上野 春雄					1	3, 00			
上野好太郎	3	3, 00	16	4, 3, 25	1	20	8	4, 26	
上野猪之助	17	4, 2, 21	18	4, 4, 27	5	1, 0, 00	2	1, 15	
上野 シマ	7	3, 4, 08	20	5, 4, 17	4	6, 22	1	20	
上野 シメ			5	1, 2, 00	2	2, 22			
上野 嘉十			6	2, 1, 00	1	1, 03			
上野 嘉十	7	2, 0, 28	5	8, 20	2	2, 00	1	12	
上野 末増	6	1, 1, 03	19	4, 7, 14	9	5, 04	2	29	
上野 米市	8	2, 3, 05							

この均分相続の繰返しが、このような分散的細分化を生んでいると考えられる。彼等は畑が近くだから血縁が近いだろうともいう。このような土地所有の様式が、これをはさんでいる両地域と異なって、この集団の中だけ、びったり重なって、突然、生まれてくることを考えることはできない、これはキリシタン・カトリックと共に古いものであると考えざるを得ない。

ここで、更に、若干のデータを加えておく。下黒崎，上黒崎，牧野の旧

表6 下黒崎の土地所有の姿

名	田		畑		原		山		雑	
	筆数	合計	筆数	合計	筆数	合計	筆数	合計	筆数	合計
山口 清	5	1, 8, 16								
山崎○四郎			2	1, 03			2	1, 24		
山崎 トヨ										
山口 次雄	20	6, 23	33	4, 1, 09			8	2, 12		
山内 富雄	3	2, 19								
山口 万吉	12	7, 10	13	2, 3, 06			7	3, 02	1	10
山口 ユキ							2	5, 22		
山崎 近七	4	4, 24	8	2, 3, 04			1	3		
山崎 ナヨ			8	8, 20						
山崎 チエ	2	4	5	9, 26						
山崎 救一	2	4	12	3, 2, 28			3	1, 15		
山口千太郎			1	3, 21						
山口 英市							1	12		
山口 英市							1	12		
山口 数雄			4	9, 24						
山田 徳松										1, 19消
宮本 岩市			10	9, 20			5			
宮本岩太郎	7	6, 19	31	3, 4, 07	1		2	3, 01		
宮本 平七			1	1, 11						
宮本 次郎			1	5						
宮本 勘市			8	1, 5, 18			1	3		
浦川 イエ	17	2, 2, 14	21	2, 4, 24						田畑全部売り
〔宮本 愛										
〔浦川 イエ			2	2, 05			1	6		
宮本 由蔵	2	2, 10	10	1, 2, 14			1	15		
宮本 弥十	1	9	6	1, 8, 01						
宮本 又作	ケン(18)	1, 9, 13)	15	1, 3, 14	1	2	1	3		
宮本 庄六							1	2		
宮本 吉雄	2	27	27	4, 2, 18			5	1, 03		
〔宮本 寅市	ケン(1)	6)	ケン(1)	5)						
〔浦川 イエ					ケン(1)	2, 02)				
宮本 モト										
宮本 美野	6	2, 13	8	9, 00						
宮本富太郎	7	6, 06	30	5, 8, 15	1	14	1	8		

宮本	ミヲ			2	1,28				
宮本	三郎			5	7,18			2	3,29
宮本	吉雄			2	19			4	1,19
宮本	岩市							4	8
宮本	利雄			1	23	2	16	1	6
宮本	志可太								
浦川	重次郎	36	3,8,02	3	6,7,00	9	1,0,24	15	5,27
浦川	辰次郎	(福蔵より)		5	9,11				
田川	オモ								
浦川	助一	8	5,11	29	3,2,10			6	3,08
浦川	市治	6	7,00	23	3,0,16			7	3,01
浦川	伊八							1	23
浦川	継松			1	1,00			4	18
浦川	惣吉	13	1,0,13	31	4,4,25			11	5,16
浦川	勘次	14	1,0,15	22	3,2,18	4	1,17	4	2,18
浦川	タケ	1	2						
浦川	喜代治	1	4	20	3,0,16	1	13	3	1,15
浦川	敏介			1	1,10				
浦川	伊蔵	1	8	20	3,3,01				
上野	フサ			1	2,00				
浦川	良一	1	29	13	1,2,13			1	15
浦川	咸一	2	3,18						
浦川	惣五郎			1	8				
小田	善之助			3	3,15				
黒崎	勤			2	2,03				
宮本	好春							1	5,21

黒崎村内の各地域の土地所有の姿と、檜山でのそれである。その第一は、名寄帳を中心としての若干の sample の下黒崎の姿と上黒崎の姿の比較である。表5が上黒崎の姿を、表6が下黒崎の姿を示し、表7が両者の姿の比較を取り扱っている。表5表6では、田、畑、原、山に分けて、各個人所有の筆数及び地積を、若干の姓のものを sample として上げ、表7では、田及び畑に分けて、田については総地積3反以上、2反代、1反代に分けて、下、上黒崎の姿を、その構成筆数について比較し、畑については、5反以上、4反代、3反代について、それを比較した。下黒崎の方が細分化している

表7 上黒崎及び下黒崎の比較

田				畑			
上 黒 崎		下 黒 崎		上 黒 崎		下 黒 崎	
地 積	筆 数	地 積	筆 数	地 積	筆 数	地 積	筆 数
4, 4, 21	17			9, 3, 02	34		
3, 9, 04	13	3, 8, 02	36	7, 1, 21	20		
3, 8, 09	18			6, 8, 29	16		
3, 8, 09	8			6, 8, 03	28	6, 7, 00	
3, 5, 24	13			6, 5, 18	17		
3, 4, 08	7			6, 0, 03	33		
3, 4, 03	33			5, 4, 17	20	5, 8, 15	30
2, 1, 24	5	2, 2, 14	17	4, 0, 25	21	4, 1, 09	33
2, 5, 13	7			4, 2, 04	20	4, 2, 18	27
2, 3, 27	15			4, 6, 14	9	4, 4, 25	31
2, 8, 06	11			4, 3, 21	13		
2, 0, 08	12			4, 0, 08	12		
2, 2, 10	4			4, 3, 25	16		
2, 0, 28	7			4, 4, 27	18		
2, 3, 05	8			4, 7, 14	19		
1, 7, 17	8	1, 8, 16	5	3, 3, 18	17	3, 3, 28	12
1, 2, 19	6	(1, 9, 13	18)	3, 6, 08	18	3, 4, 07	31
1, 4, 27	6	1, 0, 13	13	3, 7, 15	16	3, 2, 10	29
1, 0, 18	4	1, 0, 15	14	3, 6, 07	9	3, 0, 16	23
1, 1, 03	6					3, 2, 18	22
						3, 0, 16	20
						3, 3, 01	20

姿がみられる。下黒崎より上黒崎の方が各一筆は大きい。個人の所有総量も大きい。上黒崎の田3反以上が10数筆より構成されているのに、下黒崎が30筆、畑の場合、4反代で上黒崎が10数筆に対して、下黒崎が30筆、3反代でも上黒崎が10数筆、下黒崎が20筆を超える姿を示している。上黒崎は大村領であり、海から比較的遠い。牧野は、更に、海から離れている。個人の土地所有総量及び一筆の大きさはこの海からの距離と逆に牧野、上

表8の1 上黒崎・牧野に於ける個人土地所有の姿  
上 黒 崎 (3)

本 木 定 太 郎				本 木 庄 次 郎			
小 字 名	地目	地 積		小 字 名	地目	地 積	
井 茂 里	田	6,06		深 ケ 田	田	1,1,00	
江 里	〃	2,17		井 茂 里	〃	6,21	
江 里	〃	1,25		〃	〃	6,12	
タ プ ノ 木 迫	〃	4,10		永 田 土 井 ノ 内	〃	1,00	
江 里	〃	6,28		〃	〃	4,11	
中 山 道	〃	9,23		江 里 頭	〃	1,18	
深 ケ 田	〃	0,03		〃	〃	3,20	
<b>Total</b>		3,1,22		〃	〃	3,17	
水 持 頭	畑	5,18		<b>Total</b>		3,8,09	
〃	〃	19		平 岳 ノ 平	畑	1,11	
〃	〃	13		水 持	〃	3,14	
〃	〃	18		〃	〃	2,13	
〃	〃	1,1,22		平	〃	1,01	
〃	〃	2,7,01		〃	〃	1,02	
〃	〃	8		稗	畑	5,20	
〃	〃	3,03		〃	〃	1,27	
〃	〃	9		〃	〃	5,27	
〃	〃	7		平	〃	20	
〃	〃	8,04		〃	〃	14	
〃	〃	1,06		上 高 野	〃	1,27	
上 高 野	〃	24		〃	〃	27	
〃	〃	2,17		〃	〃	2,05	
〃	〃	4,19		〃	〃	8,17	
〃	〃	1,21		〃	〃	5,25	
<b>Total</b>		7,2,10		〃	〃	2,05	
				稗	畑	2,25	
				森 ノ 内	〃	5,00	
				水 持	〃	9,09	
				駄 道	〃	9,02.5	
				<b>Total</b>		7,1,21.5	



表8の2 上 黒 崎 (4)

黒 崎 仙 太 郎				黒 崎 仙 太 郎			
小 字 名	地目	地 積		小 字 名	地目	地 積	
下 高 野	畑	1, 13		江 里 田		4, 11	
水 持 頭	〃	7, 04		〃 〃 〃		4, 12	
〃 〃 〃	〃	0, 29		赤 水 〃		6, 22	
〃 〃 〃	〃	2, 27		江 里 〃		2, 28	
森 の 内	〃	0, 01		小 島 〃		1, 14	
高 野	〃	0, 27		〃 〃 〃		1, 10	
万 蔵 庵	〃	1, 15		赤 水 〃		23	
湯 無 田	〃	1, 20		湯 無 田	〃	7, 16	
栗 山	〃	26		〃 〃 〃		20	
尾 崎	〃	1, 29		前 田	〃	2, 22	
〃 〃 〃	〃	5, 23		湯 無 田	〃	1, 00	
姥 子 迫 西	〃	5, 03		江 里	〃	1, 10	
〃 〃 〃	〃	2, 18		〃 〃 〃		3, 26	
〃 〃 〃	〃	1, 17		<b>Total</b>		<b>3, 9, 04</b>	
栗 山	〃	17					
姥 子 迫 西	〃	24					
万 蔵 庵	〃	1, 17					
九 郎 木 場	〃	4, 00					
尾 崎 道 上	〃	4, 01					
水 持 頭	〃	1, 17					
上 高 野	〃	3, 27					

表8の3 牧 野 (1)

山 下 久 次 郎				山 下 啓 作			
小 字 名	地目	地 積		小 字 名	地目	地 積	
蜂 巢 田		7, 25		蜂 巢 田		3, 20	
天 戸	〃	9, 03		〃 〃 〃		3, 11	
マ ス キ ノ 尾	〃	1, 3, 23		二 本 松	〃	21	
〃 〃 〃	〃	1, 01		田 河 内	〃	1, 13	
<b>Total</b>		<b>3, 1, 21</b>		<b>Total</b>		<b>9, 05</b>	
二 本 松	畑	3, 10		二 本 松	畑	5, 22	

	〃	〃	3, 11	〃	〃	1, 20
	〃	〃	3, 20	〃	〃	4, 13
	〃	〃	6, 23	〃	〃	5, 22
	〃	〃	1, 11	西 柄 太	〃	4, 28
西	横	石	2, 03	二 本 松	〃	1, 16
	〃	〃	5, 26	赤 〃 松	〃	1, 3, 13
二	本	松	2, 10	〃	〃	2, 14
田	河	内	8, 00	西 柄 太	〃	4, 00
峰	〃	巢	18	〃	〃	7, 19
	〃	〃	2, 28	Total		5, 1, 17
	〃	〃	1, 09			
	〃	〃	1, 11			
	〃	〃	19			
Total			4, 3, 19			

表9 下黒崎小字正手における土地所有  
下黒崎郷 2937—3345

台帳番号	地目	地積	現所者	所有の変遷	
2937	イ	畑	21	宮本富太郎	古川与平, 宮本喜三, 宮本〇太, 宮本利雄, 宮本富太郎
〃	ロ	〃	10	出口 三喜	出口長吉, 出口惣太郎, 出口三喜
〃	ハ	〃	11	下川 代吉	出口八平, 出口原次郎, 平野太五郎, 平野勇八, 下川忠藏, 農林, 下川代吉
2938	イ	〃	11	下川 代吉	平野要藏, 平野太五郎, 平野勇八, 下川忠藏, 農林, 下川代吉
〃	ロ	〃	6	平野近太郎	平野三吉, 平野茂吉, 平野近七, 平野近太郎
〃	ハ	〃	6	岩永 シゲ	村川和吉, 村川熊次郎
2939		〃	1, 00	宮本岩太郎	宮本平七, 上野慶市, 宮本岩太郎
2940		〃			
2941	イ	〃	8	浦川惣五郎	
〃	ロ	〃	8	浦川 勘次	浦川弥藏, 浦川卯太郎, 浦川宗太郎, 浦川勘次
〃	ハ	〃	11	浦川 勘次	浦川弥藏, 浦川卯太郎, 浦川宗太郎, 浦川勘次
2942		〃	17	山崎 近七	山崎太作, 山崎近七
2943		〃	17	浦川 市治	辻村岩吉, 浦川和三郎, 浦川市治

2944	イ	田	11	平野近太郎	平野茂吉，平野近七，平野近太郎
〃	ロ	〃	20	辻村 重松	辻村徳松，辻村十吉，辻村松市，辻村重松
〃	2	〃	18	下川 代吉	
2945		〃	10	宮本岩太郎	岩本平七，上野慶市，宮本岩太郎
2946	イ	〃	13	下川 代吉	平野太五郎，平野勇八，下川忠蔵，農林，下川代吉
〃	ロ	〃	13	平野近太郎	平野茂吉，平野近七，平野近太郎
2947	イ	〃	3	下川 代吉	出口源次郎，平野太五郎，平野勇八，下川忠蔵，農林，下川代吉
〃	ロ	〃	4	出口 三喜	出口長吉，出口惣太郎，出口三喜
〃	ハ	〃	6	下川 代吉	出口八平，出口源次郎，平野太五郎，平野勇八，下川忠蔵，農林，下川代吉
2948	イ	〃	14	浦川 イエ 宮本 愛	宮本十蔵，宮本寅市，イエ，愛
〃	ロ	〃	15	下川 此八	宮本弥蔵，宮本次郎，松尾末五郎，下川此八
〃	ハ	〃	14	浦川 市治	浦川卯太郎，浦川宗太郎，浦川市治
2949		〃	1,07	山崎 源八 山崎 仁助	
2950		畑	24	平野 十吉	平野嘉太，平野十吉
2951		〃	4	浦川 市治	辻村仁八，辻村岩吉，浦川和三郎，浦川市治
2952		〃	3	平野 十吉	辻村茂八，平野嘉太，平野十吉
2951		〃	7	浦川 市治	村上兵六，村上与市，浦川和三郎，浦川市治
2952		〃	4	高野 公一	村川六市，村上幸三，村上岩吉，高野此八，高野公一
2953		〃	3	高野 公一	村川六市，村上幸三，村上岩吉，高野此八，高野公一
2954		〃	11	高野 公一	高野金平，高野此八，高野寅市，高野耕一，高野公一
2955		〃	16	高野辰五郎	辻村仁八，高野辰五郎
2956		田	20	高野 耕一	高野金平，高野此八，高野寅市，高野耕一
2956	1	畑	17	宮本 又作	下川祐蔵，平野勇八，高野梅蔵，農林省，宮本又作
2956	2	〃	9	高野 耕一	高野金平，高野此八，高野寅市，高野耕一
2957		〃	2,06	柴田 清太 浦川 兼吉 山崎 久一	

166 キリシタン・カトリック村落，黒崎の土地所有及び戸籍について

2957	溜池	1, 01	浦川 利八 柴田市次郎 山崎 太作	
2958	畑	1, 01	浦川 巴吉 山崎 久一 柴田 清太	
2958	イ 原野	13	山崎 近七	山崎太作，山崎近七
2958	ロ //	13	浦川喜代治	浦川利八，浦川喜代治
2958	ハ //	13	武藤勇次郎	田川清太，田川源八，武藤勇次郎
2959	田	15	田口 円雄	田口伊作，田口福市，田口円雄
2959	原野	19	田口 円雄	田口伊作，田口福市，田口円雄
2959	1 田	7	田口 哲一	田口八五郎，田口哲一
2960	//	14	下川久五郎	辻村仁八，下川久五郎
2961	{イ ロ ハ}	1, 13	浦川 市治	浦川弥藏，浦川卯太郎，浦川宗太郎， 浦川市治
2961	2 原野	15	浦川 勘次	浦川弥藏，浦川卯太郎，浦川宗太郎， 浦川勘次
2961	ホ //	14	浦川 勘次	浦川弥藏，浦川卯太郎，浦川宗太郎， 浦川勘次
2961	へ //	14	宮本富太郎	宮本嘉市，宮本十藏，宮本伊八，宮本 富太郎
2962	田	26	平野 与一	平野武平，平野与吉，平野勘助，平野 与一
2963	//	23	高野 常吉	杉山庄吉，高野熊次郎，高野常吉
2964	//	1, 06	村川 幸吉	村川六市，村川幸三，村川岩吉，村川 幸吉
2965	//	5	山口 次雄	山口次郎，山口源八，松川安五郎，山 口六市，山口猛雄，山口次雄
2966	//	5	山口 次雄	山口龍藏，山口六一，山口猛雄，山口 次雄
2967	//	16	中尾 新松	松川元吉，中尾喜八，中尾新松
2968	イ //	8	田口 豊光	田口卯三，田口惣十，田口次郎，田口 倉松，山口大吉，山口スギ外5名，田 口スギ外3名，田口豊光
2968	ロ //	8	田口幸太郎	田口代吉，田口倉松，田口幸太郎
2969	//	15	田口幸太郎	田口七藏，田口亀次郎，田口幸太郎
2970} 2971}	//	25	松下 米吉	田口久市，高野長吉，高野長太郎，松 下米吉
2972	//	2, 21	宮本岩太郎	山本並藏，山本紋次郎，村上寅吉，村 上賢一，農林省，宮本岩太郎

2973	〃	1, 03	下川辰之助	平川作市，下川与助，下川庄太郎，下川辰之助	
2974	〃	8	松下 清八	松下佐十	
2975	〃	20	浦川重次郎	山崎辰次郎，宮本喜三，村上代吉，浦川伊八，浦川福蔵，浦川重次郎	
2976	畑	5	小田善之助	宮本弥蔵，宮本次郎，宮本フク，松川与市，松川弥三郎，村上寅吉，村上賢一，農林省，小田善之助	
2977	田	1, 05	川原勘次郎	川原八百吉，川原ユキ，川原勘次郎	
2978	〃	21	古川 潔	古川源八，古川利平，古川潔	
2979	〃	21	田口 哲一	古川兵六，田口八五郎，田口哲一	
2980	〃	3, 02	尾崎庄右エ門	中村近蔵，尾崎庄右エ門	
2981	〃	1, 13	尾崎庄右エ門	坂本鹿蔵，中村近蔵，尾崎庄右エ門	
2982	〃	19	浦川 惣吉		
2983	〃	6	古川 嘉市	古川兵六，古川嘉市	
2984	〃	6	田川 謙一	古川源八，古川利平，古川潔，古川近七，農林省，田川謙一	
2985	〃	17	田川 フデ	川原貞八，川原嘉蔵，川原寅蔵，川原弥十，農林省，田川フデ， {村川リワ 村川ハシ	
2986	イ	畑	6	浦川 良一	浦川長吉，浦川福蔵，浦川良一
2986	ロ	〃	6	浦川 良一	浦川吉蔵，浦川辰次郎，浦川良一
2986	ハ	〃	6	浦川 良一	浦川徳松，浦川定平，浦川伊蔵，浦川良一
2987	田	29	浦川 良一	浦川徳松外2名，浦川伊蔵，浦川福蔵，浦川伊八，浦川良一	
2988	〃	2, 06	山崎 近七	山崎太作，山崎近七	
2989	〃	13	浦川 イエ	古川多七，古川与吉，宮本喜三，宮本寅市，浦川浩，浦川イエ	
2990	〃	10	古川 近蔵	古川伊吾，古川近蔵	
2991	〃	11	古川兼太郎	古川龍松，古川長助，古川代吉，古川兼太郎	
2992	〃	8	浦川 勘次	村上兵六，村上与市，村上弥三郎，村上兵太郎，浦川宗太郎，浦川勘次	
2993	〃	1, 16	浦川 勘次	村上兵六，村上与市，村上弥三郎，村上兵太郎，浦川宗太郎，浦川勘次	
2994	〃	11	山口 次雄	山口龍蔵，山口六一，山口猛雄，山口次雄	

2995	〃	11	山口 次雄	山口次郎，山口源八，松川安五郎，山口六市，山口六一，山口猛雄，山口次雄
2996	〃	1, 03	村川有左エ門	古川有平，村川作蔵，村川有左エ門
2997	〃	11	浦川 イエ	宮本喜三，宮本寅市，浦川浩，浦川イエ
2998	〃	10	村川彦九郎	松尾和平，松尾与吉，村川彦九郎
2999	〃	27	浦川 惣吉	今村仁蔵
3000	〃	13	浦川 惣吉	今村源次郎
3001	〃	18	村川彦太郎	松尾和平，松尾与吉，村川彦太郎
3002	〃	17	松崎 ノヤ	
3003	〃	1, 28	浦川 惣吉	古川伊蔵，古川徳一，柴田次郎，浦川惣吉

黒崎，下黒崎の順を示している。上黒崎，牧野は専農地域といわれている。とはいえ，表8にみられるように，<sup>註3</sup> 牧野，上黒崎に於いても細分化及び分散的傾向は強い。細分化と分散的傾向は上黒崎及び牧野にも存しているといえる。

表9は下黒崎に於ける土地所有の姿の sample として，正手の一部を取って見たものである。下黒崎のセンターの下の平野部である。台帳番号，地目，地積，現所有者。現所有者への所有経過を示している。所有の変遷の最初の人，台帳作成時の人であり，同時点に立つ人である。表9より，次の如き同姓隣接所有均分の結果の方向がみられる。2937ロ，ハ，畑10歩，畑11歩，出口長吉，出口八平；2938イ，ロ，畑11歩，畑6歩，平野要蔵，平野三吉；2946イ，ロ，田13歩，田13歩，平野太五郎，平野茂吉；2947イ，ロ，ハ田3歩，田4歩，田6歩；出口原次郎，出口長吉，出口八平；2948イ，ロ，田14歩，田15歩，宮本十蔵，宮本弥蔵；2951，2952，田5歩，田5歩，山口次郎，山口龍蔵；2968イ，ロ，2969，<sup>2970</sup> 田8歩，田8歩，<sup>2971</sup> 田15歩，田25歩，田口卯三，田口代吉，田口七蔵，田口久市；2978，2979，田21歩，田21歩，古川源八，古川兵六；2983，2984，田6歩，田6歩，古川兵六，古川源八；2985，田17歩共有，川原嘉蔵，川原寅蔵，川原

図 8 壁の本

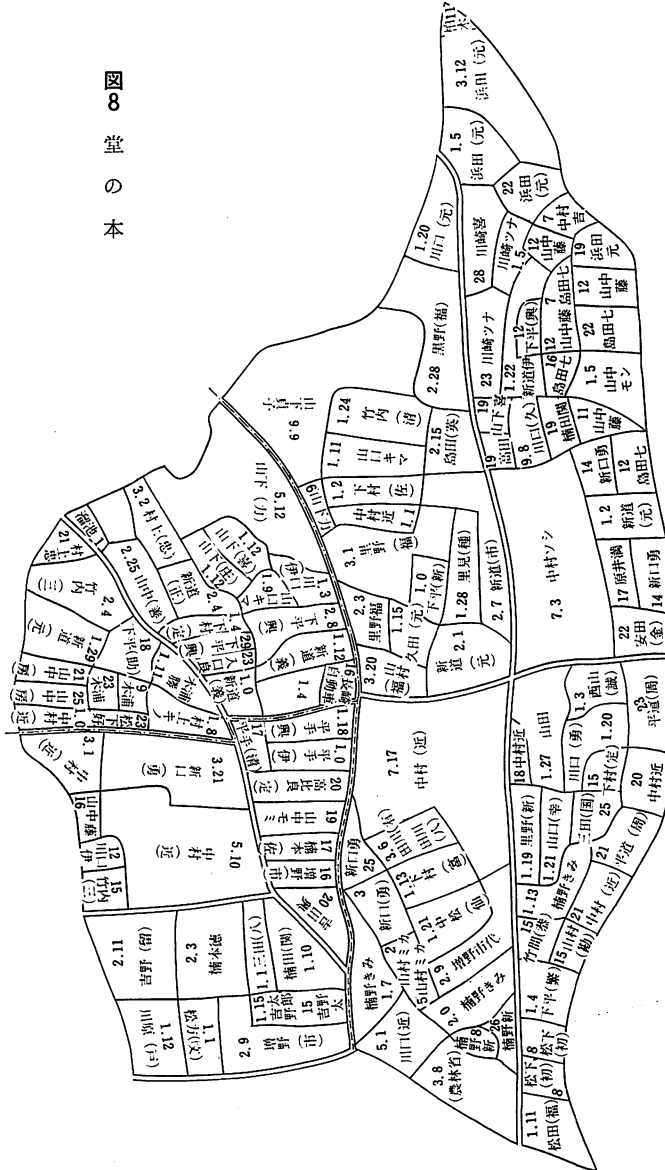
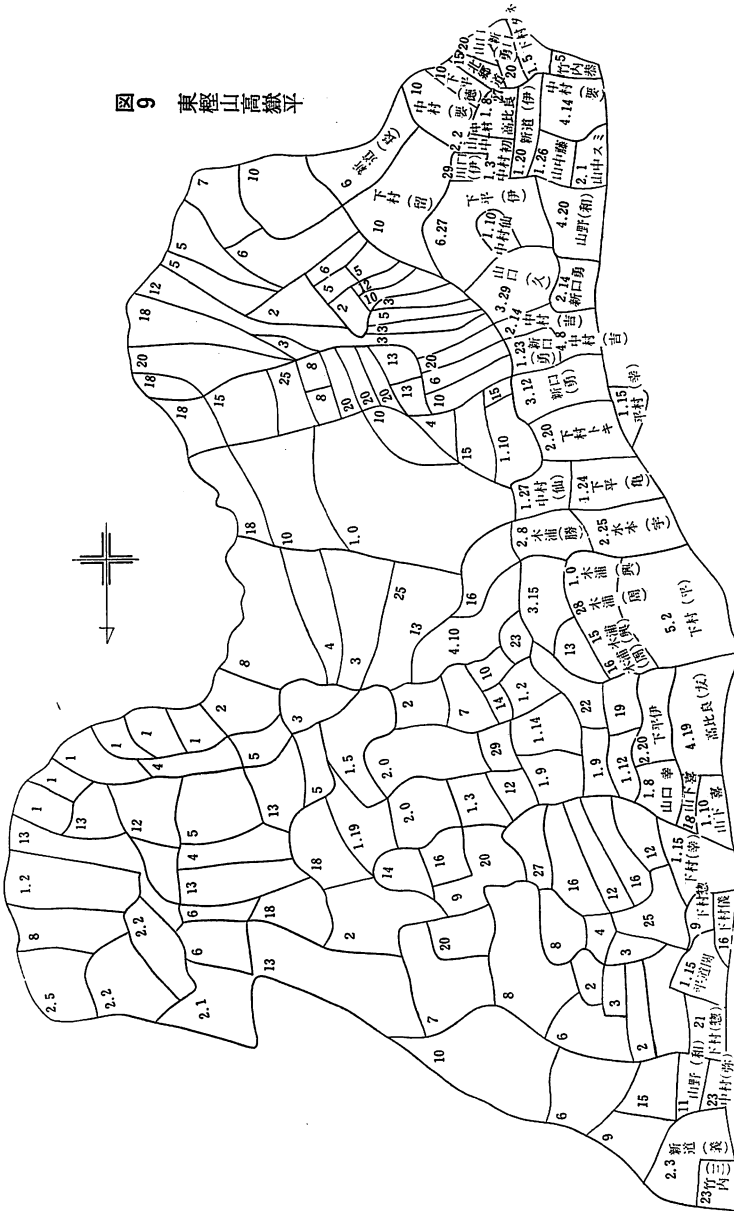


図 9 東麓山高嶽平





弥十；2986，イ，ロ，ハ，畑6歩，畑6歩，畑6歩，浦川長吉，浦川吉蔵，浦川徳松；2987，田29歩共有，浦川伊蔵，浦川福蔵，浦川伊八；2989，2990，2991，田13歩，田10歩，田11歩，古川多七，古川伊吾，古川龍松；2994，2995，田11歩，田11歩，山口龍蔵，山口次郎；2999，3000，田27歩，田13歩，今村仁蔵，今村源次郎がそれである。イ，ロ，ハは一筆の更に細分化である。均分による細分化と分散の方向がみられる。

図8堂の本は大部分が西樫山に属する。東の---でかこまれた部分が東樫山に属する。---線を加えるものもある。東樫山の細分化の方がはげしい姿がみられる。図9は東樫山の高嶽平の字図である。同姓隣接が畑地にみられる。畑地は名の入っている部分である。

村落での土地所有の持つ意味は大きい。普通その生活の殆んどが土地に依存している。分散した細分化された土地でも，その上になつて，生活をして行かねばならない。ところでこのような分散的に細分化した土地で水田耕作を考えることは，分有するものが近い親族であつてもむづかしい<sup>註4</sup>。いも，麦，ひえ，あわの耕作が主として考えられる。江戸末の大村郷村記に記された作物としては，米以外に大麦，小麦，大豆，蕎麦，粟，芋，があげられている。

分散的な細分化された土地，しかもその総量も，一，二反で，子をおろすことを拒否して，どのようにして生活していくことが出来るか。キリシタン・カトリック系文化にとって，これ以外の収入が必須であつた。第一に海への依存が考えられる。ここの人々は殆んどが半農半漁として生活して来た。海から相当に遠い出津の畑抗あたりの人までが半農半漁であつた。この地域の海は，かつては真黒になる程魚がいたようである。イワシは食糧であつたと同時に，余り多く取れたので肥料としても使用された。ほしいわしや，そのにたしるを肥料とした。黒崎の人々はイモとイワシで生活して来たといわれている。そしてこの体格は郡内随一であつたといわれている。比較的青い虹彩の人々も若干みらる。イワシは塩のタルヅケ

にし、半年以上にわたってこれをたべた。三食いともいわしであった。麦めしは年に一、二度、盆と正月にたべる程度であった。少し条件のよかった三重でも、大給であった土族久松家(かつては800石、郷村記では25石)は麦めしを常食としたようであるが、久松家出入りのものが麦をもらって帰るのを楽しみにして、その子等はねずに待ったと語られている。このように土地は有限であるが、海からの漁獲はある意味で無限であった。キリシタン・カトリックの生活はこの海因子の上に築かれていたと考えられる。この均分の考え方それ自体が海にもとづく生活に関係していると私は考えているが、この土地の均分も、海からの収入なしに考えることは出来ない。

このような均分とそれにもとづく過度の細分化とその分散的形態は、この海 factor とともに、mobilization 或いは出稼への依存を考えさせる。外海地域の人々の移動の度合は比較的高かったようである。その出稼ぎ出漁も盛んであった。五島諸島地域、黒島、馬渡などへのこの地域からの移動は多い。この傾向は現在も強く存している。

また、このような均分の考え方は、ある特定の家が他の家に対して優位を占めないことを結果する。ある家が他の家に優越し、他を保護したすけると同時に、他のものに対して支配的方向をもつという関係のなさを結果する。家々がこのような意味での構造をなさないことと関係する。所謂本分家関係のなさをも結果する。ここでは、本家、分家の意識はない。財の配分が均等であるように、各家も均等である。長男への重視もない。先に他の論文にものべたように、長男である藤一より二男、三男が社会階層について、はるかに上位に評価され、誰れもこれを異様なこととしない。何々家の意識はない。本分家関係のなさ、家の意識のなさは、ここの一つの特徴点である。隣接仏教村落である、三重本村の場合でも、本分家の意識は比較的薄い。しかし長子相続であるので、兄弟の間では本分家的関係は存している。位牌は長男がもつ。キリシタン・カトリック地域での各家の平等の関係は、均分と consistent であり、均分に伴う特徴であるとも考えら

れる。

キリシタン・カトリック系文化地域の場合，宗教的統合は他の level の統合に優先して来た。宗教を共にする共同体意識は強い。誰かが一言もらせば，全員が死を共にする危険を含んだ統合である。共に耐え，共に分け合って生きてきた。周囲からも宗教を Index として強く隔離されている。ここで宗教的統合 level で働く力は大きかった。そして宗教的 level での統合のかたさが，他の統合単位のかたさに代ることが出来た。社会的統合の姿は，その諸 level の中で，どの level かが強力である形をとると私は考えている。

均分，土地の分散的細分化，各人各戸の均等的独立的傾向は，キリシタン・カトリック系文化地域に，佐賀領，大村領の区別を越えて存している。ところで，この両藩領は，互いに多くの入合い地をもっているが，東樫山（佐賀）と西樫山（大村），下黒崎（佐賀）と上黒崎（大村）の事例などにもみられるように，言葉をはじめ，気質その他にもはっきりした異なりをもっているといわれている。これは相互の文化的隔離の相当度に強かったことを示している。このような隔離の存在にもかかわらず，キリシタン・カトリック系文化が強い類似性と一致性を示していることは，キリシタン・カトリック的なるものが，より強い力で働いて来たことを示していると考えられる。

次に，この均分，土地の分散的細分化の問題と，カトリシズムのかかわりの問題を考える。

キリシタン・カトリシズム地域を研究の対象領域として捉えた最も重要な理由の一つは，カトリシズムが日本文化と異質的なものであるので，その宗教文化 complex としての全体的姿を，その関係文脈を，捉えることが容易であることの故であった。宗教現象の姿をその全体的在り方に於いて捉え，その諸文化因子のからみ合いの姿を取りだすことが容易であると考えたが故である。

そこで，均分，土地所有の姿とカトリシズムの関連に関する問題点への

観察を進めていく。

先づ，この土地の均分，細分化，分散的傾向を，宗教の中に含まれたものとして捉えるかどうかということについて。

このキリシタン・カトリック地域をかこむ両隣の村落と異なって，この地域だけに均分，細分化，分散的傾向がみられることは，ここの宗教文化 complex の中に，しかもその重要な中核的因子として，これらの傾向が存していることを示している。

ところで，坐る，水垢離をとる，水を授ける，割礼をうける，何をいつたべる，何をたべてはいけない，何をしてはいけない，どのような結婚をしてよい，どのような行動をどのような日，どのような時間にしてはならない，どのような家族の結合の様式をとらねばならないなど種々の事物，行動様式，社会接触等が，宗教の中に含まれるものとして捉えられて来ている。そのあるものは宗教にとって中心的なものとして含まれ，あるものは周辺の行動様式として含まれている。ある宗教で中心的なものとして捉えられている同じものが，他の宗教では周辺的である場合もある。

ところで，今ここで問題にしていることは，宗教には何が含まれ，何が含まれないのか，宗教に含まれている諸因子にはどのようなものがあるのかの問題である。キリスト教にも，イスラムにも，イエス時代の，マホメット時代の，いろいろな文化要素が含まれている。ある見方からすれば，その宗教と無関係と考えられるものが，いくらか含まれている。このような，宗教に含まれているもの，宗教にかかわっているものについて，考えていこうとするのである。

〔I〕この均分と，土地の細分化と分散的傾向が，宗教に含まれるかどうかの問題である。この問題について，私が考えている若干の point をあげて考えていってみる。

①宗教現象を考える場合，従来普通に考えられている，宗教思想，宗教儀礼，宗教生活，教団などの各カテゴリー毎に，かってからあげられてい

る特徴について，観察していく行き方がある．この行き方の上にならば，財産の相続に際しての均分及びそれにもとづく土地の細分化，その分散的傾向を考えると，それは宗教の中に含まれない．

②inner adjustment (内調整)，及びそれを中心とした interpretation (解釈) との関係において，宗教的な度合を決定し，これに関係する度合で，事物や，行動様式における宗教性を，宗教に含まれるか含まれないかを考えることもできる．宗教的意味づけに関係した解釈がそれに付与されているかどうかによって，宗教に含まれているかどうかを決定する．この方向からも，均分，細分化，分散的傾向は，宗教に含まれない．

③その宗教の流れの中で，どこでも，その factor がみられる時には，それは，その宗教の部分であると考え．それがどのように，宗教とは無関係と普通の考え方で捉えられようとも，いつも存する場合，それはその宗教に含まれるものと考えることが出来るとの考え方である．ところで宗教も変化する．したがってある時代に含まれているものが，他の時代には含まれないことがみられる．この相続，細分化，分散の問題をこの方向からみると，この均分の傾向は，五島の諸地域，黒島，田平などでもみられる．キリシタン・カトリック系地域の多くでみられる現象であるとはいえる．

④宗教現象の在る姿，その働く姿，その変化の姿を捉え，その単なる記述と類型分けでなくて，その在る姿は何故かとの問いに答えようとする時，宗教現象を宗教文化 complex として取り扱っていくことが適当であり，必要である．宗教は，生活の全体的な意味づけに関係しているので，原則として，文化の全局面に関係する傾向をもっている．そこで Sorokin のいう場所的併存としての文化因子でさえも，これに関係する傾向をもつ．その因子が文化の中心的部分にかかわればかかわる程，宗教への関係もつよくなって来る．

水垢離をとるといふようなことが，宗教に含まれるかもしれない．しか

しそのことが宗教の変化の dynamics の中で演ずる役割りは小さい。ところで土地所有の在り方は、これに含まれないとしても、それはその宗教的なものの動いているメカニズム dynamics の中では、はるかに重要な力として働いているかもしれない。宗教現象の働きや動きを現実の具体的な姿において問題にする場合、均分、細分化、分散的というような特殊の在り方は、宗教文化 complex の重要な一つの pattern として捉えられて来る。そして、この説明は、宗教の mechanism、宗教の dynamics の働き、その変化の姿を明らかにする為には、必須であり、より重要である。

以上のようにみて来ると、この因子は宗教の中に含まれないという見方が強いといえる。普通の意味で宗教には含まれないが、宗教文化 complex の最も重要な因子の一つであると考えられるのである。宗教の分析に最も重要な文化側面の一つである。

〔Ⅱ〕均分，土地の細分化，分散的傾向の宗教文化 complex に於ける位置について，

このキリシタン・カトリック文化地域は宗教を index とした結合であり、それによって他から区分された地域である。そして、そこで、この土地所有の均分の姿と、この文化地域がびったり重なる場合、両者が無関係ということは出来ない。しかも、この細分化と分散的傾向は明確な耕作場面での不便を伴っているにもかかわらず、それが維持されているのは、維持の方向に力の働いていることを示していると考えられる。それはただそうあるだけでなく、あらしめられているのである。不便が強ければ強い程、そこに働く力も強いことがみられる。そしてこの土地所有の在り方は、この文化全体の在り方に中心的な問題としてかかっている。この宗教文化 complex の中心にある一つの緊張を含んだ問題点である。

〔Ⅲ〕この相続の均分の様式は、ここのキリシタン・カトリック文化 complex の伝統の中で維持されて来ている。これに含まれたものとして伝達され把持されて来ている。現在ではその一文化因子として考えられ、捉え

る。ところで、これはカトリシズムによって持ち込まれたのであろうか、持ち込まれたとすると均分相続の地域の分布が大きすぎる。これは内藤教授の調査にもみられるところである。

私は、この問題について次の様に考えている。仮説である。この相続の均分の様式は、キリシタン伝播の頃、この地方に比較的広く分布していたと考える。そして、これは宗教文化 complex の中に定着し、維持され、存しつづけて来た。宗教にはこのような固定性への傾向、凍結への傾向がある。周辺の仏教村落では長子相続の形が普通でも、キリシタン・カトリック村落では、この均分の姿を維持し、存続させて来たと考えられるのである。この固定性への傾向は宗教の機能である。宗教の力である。これは実際の生活の便宜に強くぶっかって来ている。しかし宗教がこれを現時点まで存続させて来たと考えるのである。

ところで、この均分の方はキリシタン・カトリック文化と、dissonant な関係よりも、consonant な関係のものをより多く含んでいると考えられる。

その若干に言及する。

宗教的統合は、Sorokin のいう意味的統合の色合いを強くもつものである。この意味的統合は意味的な局面での consistency の高さを含んでいる。中心的な意味の全体への滲透と、それへの諸文化局面の consistent な方向を含んでいる統合である。そこで、この均分とカトリック的なものとの consistency について考える。

i 均分という原理的なものが、耕作場面での実生活の便宜に優先している行き方である。原理的なものが、此世的なものに優先している。宗教的カトリック的な生き方は、このような生き方と consistent なものを含んでいる。抽象的なもの、inner なものが、outer なものよりもより上位で、より強く働いている関係である。

ii この均分の傾向は、各戸、各人の均等、本分家関係のなさなどと

consistent である，均分は非従属の意識，個の個としての尊重の方向，全体に没しない傾向への方向と関係する．そしてこの形の生活態度は黒崎のキリシタンの生活態度の中に<sup>註5</sup>存している．

このような consistent なものを含むものの中において，この文化因子は宗教文化 complex の重要因子として<sup>註6</sup>維持され伝達されて来たと考えられるのである．この点は本論文に述べられていない他の諸研究結果とともに考えられているものである．なお祖先のものを大切にする傾向，迫害下の運命共同体の集団的存在の姿などもこれに関係していよう．

〔IV〕キリシタン・カトリック文化と均分について言及する場合，海 factor に言及することが必要である．均分にもとづく土地の細分化と分散的傾向を考える場合，海 factor を入れた生活を考える以外に生きることはむづかしい．どの地域でのキリシタン・カトリックでも海 factor が重要であったし，その生活において中心的意味をもっていた．海よりの収入と食糧を考えることなしに，彼等の現実の生活を考えることは不可能であった．また，この均分の考え方は海による生活収入とより consistent なものを含んでいる．漁獲の均分の容易さの考え方である．この海 factor がカトリック的なものの中核的なものとしての彼岸性と<sup>註7</sup>関係する方向については先に言及したところである．

#### (四) 戸籍をめぐる若干の問題点

次にキリシタン・カトリック系文化地域の戸籍のもつ若干の特徴点を取り出してみる．ここでは，叙述の便宜の為に，下黒崎の戸籍の姿と，上道徳のそれとを，対比しつつ，観察を進める．それぞれについて，若干の sample を取り扱う．表10はキリシタン・カトリック系文化地域の sample として，下黒崎に於ける浦川姓のもの及び松川姓のあるものを取り出してみたものである．表11は非キリシタン・カトリック地域の sample として，上道徳に於ける若干の事例を取り扱った．この両者の在り方の異り



表10の1 浦川姓戸籍

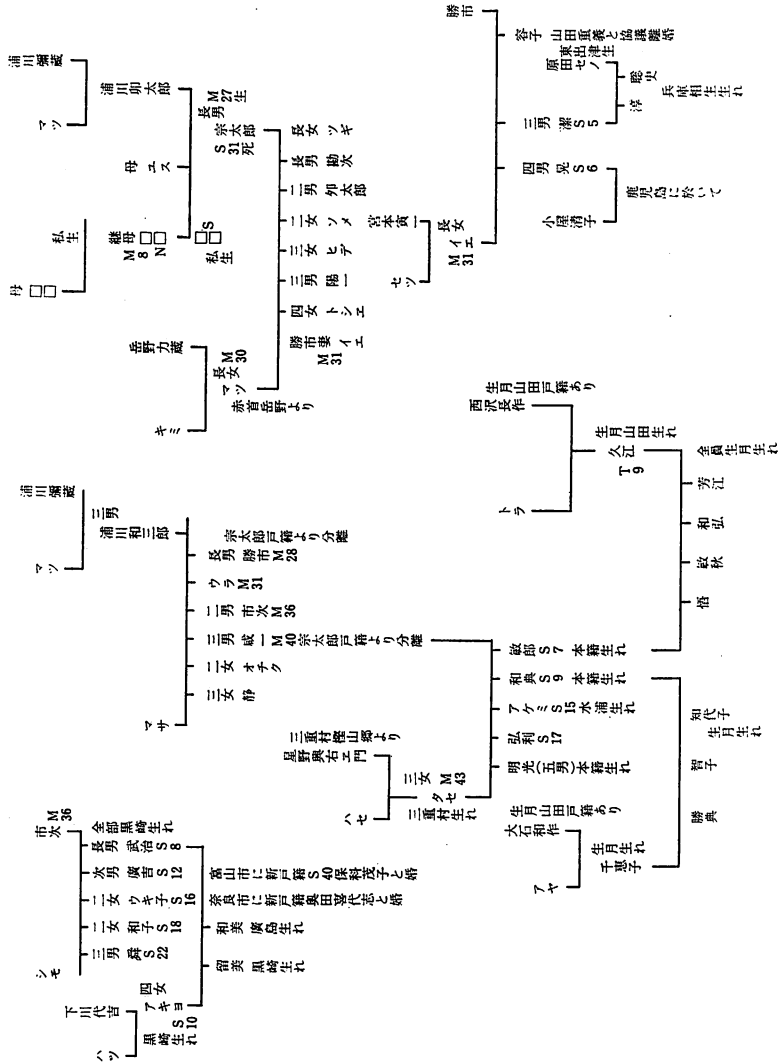
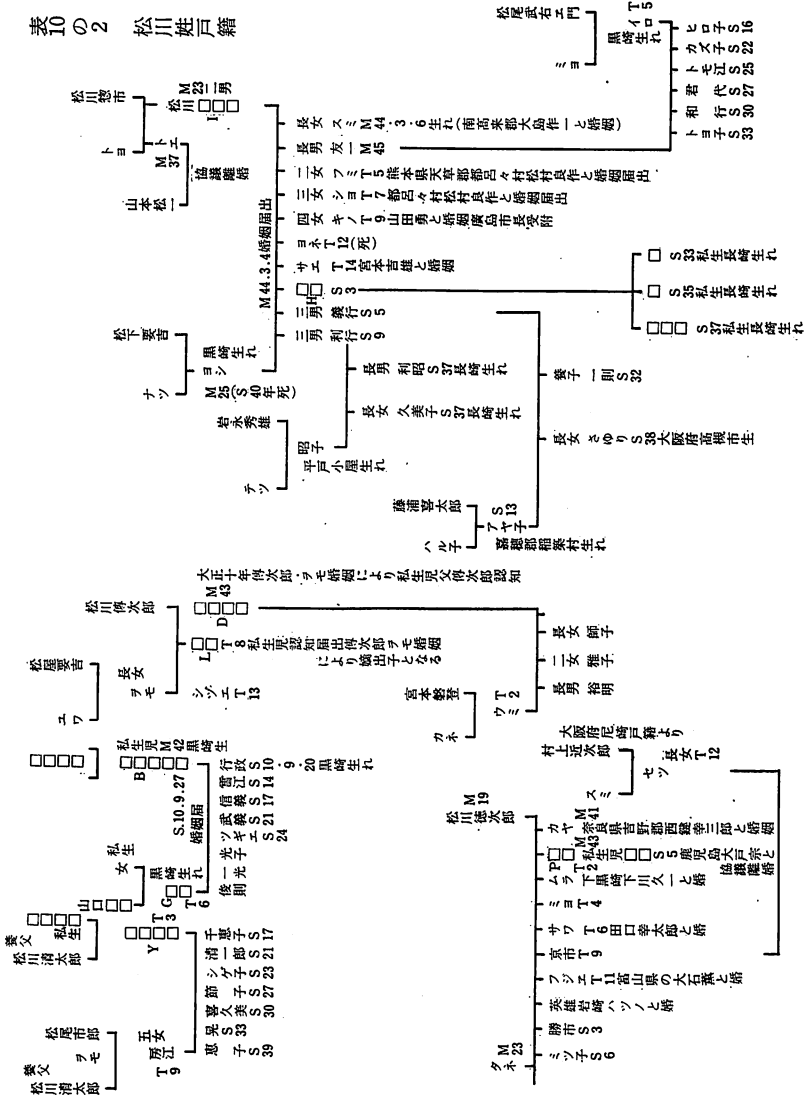




表 10 の 2 松川姓戸籍



表IIのI 上道徳戸籍

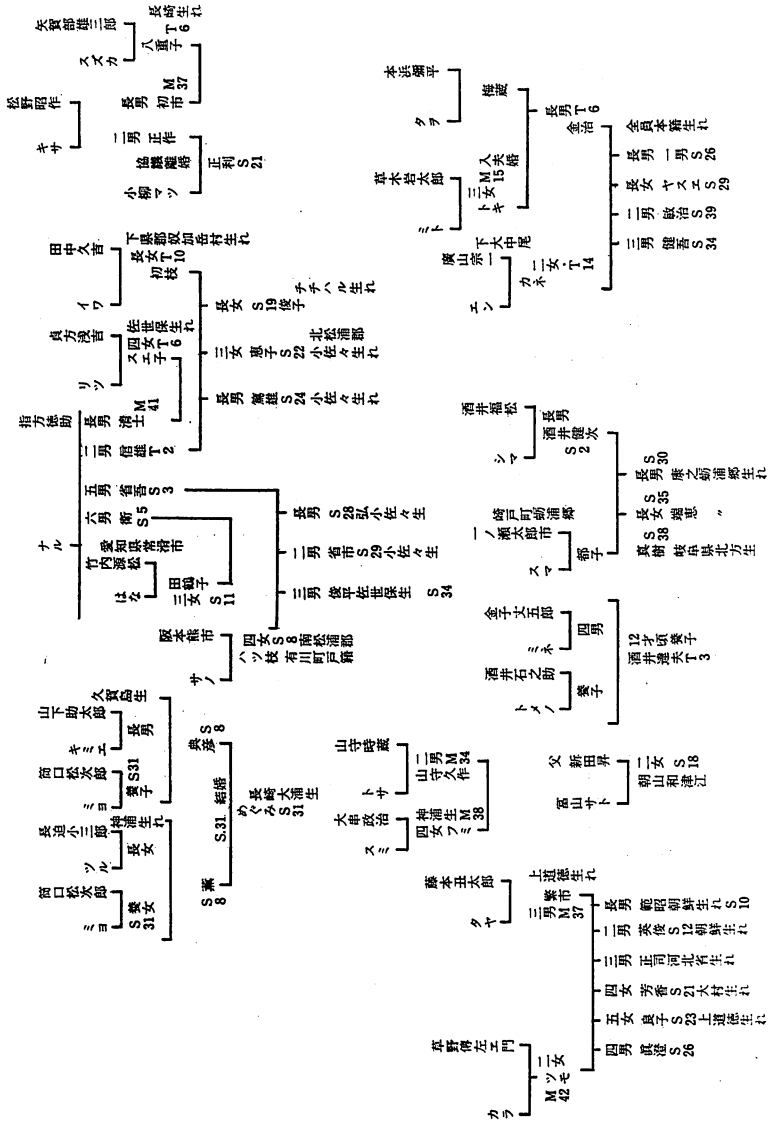


表11の2 上 道 徳 戸 籍

筆 頭 者 名	
山 川 竹 松 M29	夫M29, 妻M30, 夫婦のみ, 入夫婚
谷 口 マ サ K 2	慶応2年単独
佐 野 義 雄 S 3	養子, 離婚, 後妻子供5人
佐 野 初太郎 M29	S20妻死単独
松 野 ツ ヨ M30	離婚単独
松 野 正 作 M40	妻とは協議離婚, 長男のみ Total 2人
松 野 初 市 M37	妻八重子T6と Total 2人のみ
筒 口 典 彦 S 8	夫婦とも養子, 長女のみ, 夫死, 妻と子のみ Total 2人
指 方 省 吾 S 3	夫妻及び子供3人 Total 5人
指 方 俊 昭 S15	妻及び子供1人
指 方 信 雄 T 2	妻及び子供4人
指 方 衛 S 5	夫妻のみ Total 2人
指 方 清 士 M41	夫妻のみ Total 2人
草 木 金 治 T 6	妻及び子供4人
草 木 S M33	男私生児単独
草 木 梅 藏 M 8	夫妻のみ
岳 本 B M30	私生児子2人, 二女マサ子T12の夫はチャールズキング, アニタヒロコは佐世保生れ
梅 崎 マ シ K 1	慶応元年単独
梅 崎 留 作 M37	妻及び子供5人
梅 崎 末 吉 M41	妻及び子供3人
梅 崎 恒 行 S 6	妻及び子供4人
梅 崎 一 幸 S15	妻及び子供1人
梅 崎 ○ ○ S 7	子供3人, 妻は協議離婚
藤 本 繁 市 M37	妻及び子供6人
藤 本 範 昭 S10	妻及び子供1人
沖 島 三 郎 T 6	妻及び子供3人
沖 島 ヤ エ T 3	単独
本 浜 久 一 M32	子供5人先妻の子, 後妻との結婚 S34
本 浜 英 二 S 3	妻及び子供2人
酒 井 初 吉 M4	単独
酒 井 健 次 S 4	妻及び子供3人
畷 井 志米吉 M31	単独
酒 井 達 夫 T 3	養子単独
朝 山 知津江 S18	単独

朝山利一	S 7	妻及び子供 2 人
朝山晋作	M18	第四女 出単独
山守久作	M34	妻
谷岸梅次郎	M25	単独，S 40年妻死亡
谷岸 H	T 6	S 14年結婚，S 28年協議離婚，子供 1 人，妻は私生児
谷岸政登	T 10	妻及び子供 2 人
谷岸寿重松	S 3	妻及び子供 2 人
谷岸春樹	S 6	妻及び子供 2 人
谷岸純雄	S 8	妻及び子供 2 人
尾崎助八	T 6	妻及び子供 5 人
浜崎初一	T 3	妻死，子供 6 人
浜崎留八	M31	単独，六，七男
浜崎正一	S 8	妻及び子供 3 人
浜崎進一	S 12	妻及び子供 3 人

を通して，キリシタン・カトリック系文化地域の戸籍の特徴点の若干をと  
りだそうとする。そして，更に，その文化特性と，カトリシズムの關係に  
ついて考えていく。ここでは，四つの特徴点について叙述する。第一は子  
供の多い姿であり，第二は宗教内婚の方向であり，第三は私生児，離婚の  
問題，第四は名前についてである。

### ① 子供の多い姿

ここの戸籍の姿の観察を通して，キリシタン・カトリック系文化地域の  
戸籍の一つの特徴として，同じ父母から生まれたものの多いこと，即ち同じ  
父母のもとに並列的に並んでいるものの多いことがあげられる。子供数の  
多さである。表10の事例では，浦川宗太郎M27，松川 I M23，松川徳  
次郎M19，浦川和三郎，その他にみられるところである。表11の非キリシ  
タン・カトリック地域では子供の少い姿が対比的によく現われている。こ  
の多さは，キリシタン・カトリック系文化地域の，どこでもみられる重  
要な基本的特徴である。それは強くその文化を色づけているものである。  
なお更に，この場合，この並列は全くの並列であって，そこに上下関係  
はない。長男により高い値づけない姿については，先に言及した。

次にこのような子供の多さとカトリシズムのかかわり方について少し考えておく。この多さはカトリシズムの基本的な考え方とかかわっている。諸宗教の歴史はその神の子と、神の民をふやすことであつたといわれている。宗教集団<sup>註8</sup>として当然の基本的特徴である。先の均分の場合よりも、この特徴は、宗教的なものと、よりつよく関係していると考えられる。子供の多くない、子供をおろしてよいカトリシズはない。カトリシズムはそのようなものではありえない。カトリシズムの在る処には、これがあり、それは教義の中にも現われ、宗教的な意味づけもなされている。現実<sup>註9</sup>に在るカトリシズムの部分<sup>註10</sup>を強く構成しているものである。カトリシズムでの婚姻の目的は、第一に子を生み育てることである。したがって避妊が婚姻の目的に反する罪となる。子供をおろさないことは、キリシタンの長い歴史の中で、ずっと保たれて来た戒の一つでもある。そして、キリシタンカトリック文化 complex はこれにもとづく諸特徴諸関連を所有している。

## ②通 婚 圏

第二の特徴として、キリシタン・カトリック地域の通婚圏と、非キリシタン・カトリック地域のそれとは、異った地域圏を構成していることがあげられる。先づキリシタン・カトリック地域の姿を、表10にみる。

浦川宗太郎妻マツM30は旧黒崎村内赤首より、浦川咸一妻タセM43は三重村檜山郷より、敏郎妻久江S9は生月山田より、和典妻千恵子も生月山田より、浦川藤一妻ククノM45は浦上淵立神より、重次郎は西出津で生れ福蔵養子となり、浦川一男も三重檜山生れである。松川利行妻昭子S9は平戸小屋生れである。これらの婚入者はキリシタン・カトリック系地域の人々である。ここにみられる宗教内婚的傾向、旧キリシタン地域間婚姻の傾向を、キリシタン・カトリック系文化地域は強くもっている。

これに対して、上道徳表11の1の場合、松野初市妻、八重子T16は長崎市生れ、指方清士妻スエ子は佐世保生れ、信雄の妻、初枝T10は下県郡奴加岳村生れ、省吾妻ハツ枝S8は南松浦郡有川町、衛妻田鶴子S11が愛知

県常滑市である。本浜金治の妻カネ T14が神浦下大中尾，酒井健次妻都子が崎戸町蠣浦郷である。上道徳と旧黒崎村，及び樫山との通婚はない。ここには，キリシタン圏との通婚はなく，広くひろがった開放的通婚圏がみられる。

この両者の在り方に通婚圏の異なりがみられるが，同時に，キリシタン・カトリック地域の広い意味での宗教内婚の閉じた姿がみられる。勿論ここにはキリシタンへの偏見による discrimination の働きも強く働いている。

宗教内婚的傾向とカトリシズムの関係の問題についてみる。このような宗教内婚の姿は，カトリックの在る処には，どこにでも存在する。オランダ，ベルギーにみられるカトリックプロテスタントの縦割社会もこの展開である。キリシタンの場合，この内婚への方向は，宗教教理の中にも，マチリモニヨをさずからずして，夫婦になしてはいけない (Jacome Antonio 元和六年の，組の規約，組の帳よりけづらるべき条々の事第四) の如き形で含まれている。現行公教要理等に於いても，カトリック以外の人々との婚姻は原則として止められている。なお宗教そのもののメカニズムが宗教内婚の形でなくては持続することが困難であることも事実である。母の宗教は，宗教の維持にとって重要である。母が宗教を異にする場合，その家族の宗教は崩壊せざるをえない。宗教は家族に於いて，小児期に伝達され，人格構造の中心部に位置し，その生活と意味づけ方を支配するものである。したがって宗教内婚はどの宗教にとっても必要な望ましいことである。

### ③私生児及び離婚

この問題については既に他の論文に於いて若干言及した。しかし，私生及び離婚の問題はこの戸籍の一つの問題点である。目につく程多いのである。それは信仰的なものが十分に文化や人格構造のなかに存している場合と，逆の姿を提している。

先づ私生児の姿についてみる。



浦川戸籍では，浦川宗太郎継母N(M8)が私生であり，また私生児Sをもっている。浦川J(T15)が私生児をもち，浦川Rが私生児である。妻は帳方の長女Mである。松川姓ではI娘Hが私生児をもち，松川Y(T3)，松川B(M42)が私生児であり，Bの妻Gも私生児である。松川徳次郎娘P(M43)も私生児をもち，松川D(M43)，L(T8)は私生児であったが，父母の結婚により認知されている。このようにみて来ると，この黒崎に私生児は少くないということができよう。そして，また，私生であることは，他の土地のように，マイナスの形でその人々に働いていないようであることがみられる。私生児であることが，ここではそう問題でないということである。

対比の為に，上道徳での在り方をみる。それは48ケース(48戸籍)の中3ケースにみられる。草木Sが私生児であり，岳本Bが私生児であり，谷岸Hの妻が私生児である。数的には下黒崎の場合より少い。キリシタン・カトリック系文化地域の中で，より私生が多いことになる。処でキリスト教的なるものが本当にきいていけば，私生はないはずであり，私生とキリスト教的なるものはマイナスに関係すべきである。これについては，先に若者部屋女部屋などの pattern，子をおろさないことなどの関連に於いて，私の見解をのべた。

次に離婚について述べる。下黒崎の浦川及び松川では，浦川勝市の娘Y(T14)及び松川Iの妹の協議離婚がみられる。二ケースである。これに対して，上道徳戸籍では，48ケース中，佐野義雄S3，松野正作M40，松野ツヨM30，梅崎肇S7，谷岸HT6に協議離婚がみられる。先の私生と対比すると，離婚は私生とは逆に，上道徳に多い姿がみられる。

この二つの在り方はキリシタン・カトリック系文化地域では，あるべき姿と逆の形で現れているものであり，何故このようにあるかは一つの問題点として考えられることは先にも言及した。

#### ④名前について

戸籍は名前から構成されている。その構成因子としての名前は，キリシ

タン・カトリック系地域と非キリシタン・カトリック地域とは、異った pattern をもっている。少し細かに、観察を進める。ここでは、便宜的に女子の名前を取り上げる。それは二字のカナから構成されているのが普通であり、比較考察しやすいからである。黒崎、三重村三重郷、三重村檜山、神浦上道徳、神浦江川郷について、その観察を進めていく。mobilization のはげしさ、それにもとづく通婚の姿、またマス・メディアの展開にもとづき、最近では、どこでも一般化した名前がふえている。そこで、ここでは明治生れの人々の名を中心に蒐集観察した。とわいえ黒崎地域はこの名前の pattern を強く今日にも保っている。

名前は個々人の記号である。それでもって、その個人が生涯呼ばれるものであり、その個人の自己を示すものとして、受け取られているものである。勿論記号であるが、個人が自己を捉える場合の重要な入口でもある。個人の人格構造の構成場面でも、名前のもつ位置は大きい。ある集団の人々の名前がある特徴をもっていることは、他からその人々を区別すると同時に、その人々の行動様式にも影響を与えていく。

キリシタンは、アニマの名、ベヤトと彼等のよぶものをもっている。これなしにはすくわれ得ない。お水を授かる時に、それが決定される。だき親のベヤトをもらう。このだき親は宗教的親である。祖父母であることも多い。若干の事例をあげる。

竹内秀夫 ベートル、竹内ツイ マルヤ、竹内エツ マルヤ、竹内トモ ジュワナ、竹内房太 ベートル、竹内多蔵 イナシヨ、竹内大平 ドメゴス、竹内久次郎 ミギリ、田中弥之助 サンドメー、田中龍蔵 マチャス、田中ユメ ドメガス、田中十吉 サントメー、田中コメ マルヤ、田中一郎 バシチャン、田中サモ マルヤ、田中熊右衛門 サンドメー、田中弥十 サンジュワン、田中真市 イナシヨ、田中ツイ ガランサ、田中豊 サンベイトロ、田中〇之助 パウロ、田中リュウ ガラッサ

このような名前の所有は各人に大きな影響を与える。キリシタンの現在の大人達はこのベアト、アリマの名をもっているが、最近はお水を授から

ないものも多くみられはする。これはカトリックの場合霊名である。表12の2は、明治初期の黒崎カトリックの霊名をも示している。これらは日本名と全く異質的な名前である。このような名をもつことは大きな影響を、人格構成の場面でも、行動場面でも与えていく。

処でここで問題としようとするのは、普通の名前の方である。実はキリシタン・カトリック地域の女子名が他の地域のそれと非常に異なることに気づかざるを得なかった。それがこの方向の研究の初めである。どのように異なるかを観察していってみる。しかし、ここでの俗名の異りは、顕著なものではない。一見して、これがキリシタン地域のものとわかるような形のものではない。ただ全体としての在り方を集団として比較すると、ある方向のものが多という形のものである。しかしこのような異りが、集団として保たれており、また隣接したキリシタン地域で類似の pattern が存することは、キリシタン・カトリック文化の Isolation と、その宗教文化 complex に、この局面でも一つの pattern の存することを示している。ここではその特徴の一局面だけを示すことになる。

表12の1は黒崎に於ける女子名を若干の場面で取り出した。表12の2の初期教会資料によるものは教会名簿によるが、教会は1878年頃ここに出来たようである。表13が東檜山、キリシタン地域のものであり、表14は同じ三重村本村の在り方を示している三重村三重郷のものである。非キリシタン地域である。表15が神浦のものであり、上道德及び江川郷のものである。ともに非キリシタン・カトリック地域である。このキリシタン・カトリック地域と非キリシタン地域の比較をなしていく。

次に結果について述べる。先づ女子名の表をみて、すぐ目につく二つのことに言及する。

①キリシタン・カトリック地域，黒崎，檜山の女子名には、吾々の耳なれないものが多く、隣接非キリシタン・カトリック地域の sample にみられないものが多い。うみ、うら、おせ、おえ、もや、じわ、みかなども

表12の1 黒崎に於ける女子の名

ツマ，キミ，モヤ，マツ，ユス，マツ，クラ，マサ，ウラ，マツ，オチク，シモ  
 タセ，ツギ，ソメ，トヨ，ナツ，ミヨ，イロ，ヨシ，フミ，シヨ，キノ，ヨネ，  
 サエ，オエ，トヨ，ユワ，ヲモ，ウミ，チノ，ヲモ，キワ，タモ，ソイ，キヤ，  
 ハツ，ユメ，フデ，スヨ，トセ，ヨシ，ミト，カヨ，ハツ，クマ，ユス，チヲ，  
 カヤ，ヂエ，ムラ，ミヨ，サツ，スヨ，セツ，チノ，イエ

表12の2 初期黒崎教会資料による1900まで生れの女子の名  
 (外国文字は霊名の前の部分を，数字は出生年を示す)

オモ Mar 1896死	マツ Mad 1856	ミト Elis 1878	マシ Joan 1834	トワ Mar 1893	フミ Mar 1898	キメ Grat
クマ Mar	スミ Mad 1894	スヨ Grat	ミオ Teresia 1890	シワ Mar 53	オセ Mar 77	キワ Elis 1836
ハツ Mar	ミヨ Mad 93	ワサ Luc 1848	アキ Mar 70	キヤ Mar 95	ミナ Luc 1837	セヨ Cath 69
フミ Mar 1901	ユキ Mar 54	フク Dom 1857	ウヨ Cath 63	マツ Joan 54	クマ Luc 1843	キト Joan 82
トク Mar 73	サツ Luc 1845	チマ Cath 1871	キメ Joan 54	キヨ Mad 54	エツ Marg	クメ Maria 95
ソナ 70	イソ 77	トラ 81	ユキ 77	ヨエ 1903	エミ Mar 79	ユキ Mar 99
マシ Cath 57	ワカ Mar 88	ワサ Mar	キメ Ros 85	ヂヤ Dom 40	カヨ Joan 76	ミキ 79
ミツ Mar	セヨ Mar	サノ Mar 96	サイ Mad 35	キヨ Mar 69	シワ 1842	ミワ Mar 85
イス Gras 69	スヨ Gras 76	ミト Elis 76	スナ Mar 96	キワ Elis 36	シメ Luc 54	ミネ Luc 37
セワ Cath 69	キヤ Mar 95	マキ Mar 77	アキ Mar 70	ユキ Mar	ウヨ Cath 1863	マキ Elis 40
ハツ Joan 80	モヨ Cath 56	サイ Mar	ミヨ Mar 94	ワサ Luc 1848		

教会外国文字名簿中より

タヤM4	ヨソ1840	ヨシ1840	ツヤ1878	ムラ	ファイ	アキ	サツ	シモ
ソネ	ウキ	ユキ	ユメ	キワ1888	キミ1899	サモ	セヨ1916	キヨ1829
ミト	サト	スエ1841	ユキ	シヨ1884	シヅエ 1901	フク1903	ミツエ 1905	シゲ1912
タミ1887	ミツ1878	ツヤ	スエ1860	マシ1873	チノ1877	スエ1847	エモ1869	シゲ1882
ワカ1888	サガ1859	オチ1882	カネ1885	モヨ1891	スエ	フク	マキ 77	スナ 99
セツ	キヤ	シワ	ユキ	スガ	ミカ	シオ1980	シモ1907	ハマ1912
ミヨ	トエ	キワ	キワ	サキ1912	カエ1853	フリ	イソ1877	キノ1913
カノ1917	タワ1872							

表12の3 壬申浦川姓八戸の中の女名

イチ文政9	タツ安政4	ユワ 慶2	ヨネ嘉永1	シメ M12	ソネ天保13	キノ 慶2
ヲセ文政2	マサ M3	ウキ文化9	タヨ嘉永4	トラ天保3	マツ 明5	タツ文化6
マツ弘化2	フク	タキ文化9	スヨ天保12	ユク 慶2	ソイ	フチ嘉永3
シマ安政元	オモ 明6					

税関係世帯主の中より

タマ	サツ	ノ	キタ	ユサ	ツナ	シカ	キサ	クメ	エヲ	スイ	ニワ	
----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	--

下黒崎郷女帯主名より

タセ	マツ	イワ	ヒロ	タモ	サエ	キヤ	エヨ	テヨ	ソイ	アキ	ユノ	ソメ	ソメ	フリ	ユク	ツネ
セイ	イソ	チエ	コヤ	キト	サエ	コエ	サモ	ナヨ	イチ	フデ	モイ					

表13 次に改製原戸により東極山の明治以前生れの女子名を取り出す

タネ 慶元	ミヲ 慶1	ソメ 慶2	トメ 嘉5	ハツ 慶3	ソノ安政5	ミチ安政5
ミノ安政1	ハツ 慶1	チノ 文2	ノイ 弘元	トイ文久3	モメ文久2	イマ 慶1
シヨ 慶1	カメ M3	ハル M8	ソイ M9	エキ M9	ヲモ M10	クニ M5
モミ M10	コマ M9	エキ M9	スマ M5	ハル M4	ニワ M7	アキ M8
コチャM8	キリ M1	エミ M1	エヂ M9	リヨ M5	フク M5	キミ M1
ヨシ M4	サイ M10	エミ M1	テイ M4	サヨ M17	イネ M20	ヲモ M18
モミ M10	コヤ M14	エミ M13	スナ M11	タカ M14	シカ M12	シノ M18
ミヲ M19	ルイ M11	ニワ M19	ミト M17	キラ M19	マシ M13	キマ M12
イナ M11	キミ M12	ニワ M19	カル M16	ミト M17	ソシ M12	ヒロ M15
イサ M13	テイ M14	サヤ M27	シカ M25	キヨ M27	トイ M25	コエ M27
キワ M27	フク M25	キヨ M27	ミチ M29	トイ M25	トイ M25	ノヨ M24
イツ M27	ミノ M28	タエ M24	ヤツ M26	クノ M25	サヨ M21	クノ M25
ナカ M28	キヨ M27	トメ M23	ツル M25	トシ M24	シモ M25	ヤツ M26
ツネ M24	ノヨ M24	コウ M23	シゲ M26	ヒサ M24	ヒサ M24	ミカ M23
ソモ M37	イス M38	キナ M38	ソモ M32	ハヤ M34	マスヨM30	ハヤ M34
トク M39	イエ M32	シヨ M36	シヨ M36	ミシ M36	カツ M35	セキ M34
イト M31	ユイ M31	ウラ M35	タマ M39	クラ M38	スギノM39	フジノM36
キク M33	シゲヨM39	ユキ M32	キク M33	ヨワ M32	コマヘM39	ウキ M39
キツ M40	フィ M42	スガ M45	サダ子M45	イノ M40	マツ M43	ハツエM42
マツ M44	ハル M40	サキ M40	ノシ M43	フィ M41	フク M44	サキ M40
ナヲ M44	リミ M44	マツ M43	ムツ M41	ヤエ M44	ツヤ M43	シズ M44
マツ M43	ノブ M40	フノ M41	スガ M45	サツ M40	シメ M43	カド M41

カド M41	シダ M41	キヤ M40	フノ M41	エシ M41	トシノ M42	カチ M40
キサ M40						

表14 三重村三重郷の改製原戸よりの明治生れ以前の女子名

マシ安政4	フジ天保8	テヨ 慶3	テヨ 慶3	マン嘉永5	イセ安政3	ミチ嘉永4
キノ元治1	ミワ天保13	ヌイ嘉永6	ヨワ安政2	シメ万延1	トヨ弘化1	トキ 慶1
ミキ安政4	カメ嘉永4	シメ弘化2	ミシ M10	シバ M10	シバ M10	タケ M6
キク M5	イエ M6	ニワ M6	イワ M8	ツキ M9	アサ M4	サワ M6
タツ M5	トヨ M5	セキ M6	タシ M10	セヨ M10	ヨシ M6	ヨミ M5
ナツ M14	ルエ M18	キイ M16	シカ M20	サヨ M18	カヨ M19	登貴 M11
タイ M12	ミワ M18	タヲ M15	スミ M18	キク M16	キエ M19	ソイ M15
ソメ M18	ヨワ M18	ミヨ M12	トメ M18	ハツ M19	ミス M12	テヨ M14
ルエ M18	ナカ M16	シナ M16	カロ M20	マキ M21	テヨ M24	シマ M29
ヨモ M25	ヨワ M24	ミト M25	キク M25	チエ M27	ハツ M26	スガ M25
リヨ M21	アサ M29	歌子 M25	ケイ M29	タキ M21	ソヨ M26	フデ M34
サイ M38	ヨシ M35	ヨシ M35	イシ M39	イシ M39	チヨ M34	ファイ M32
キヤ M30	ツル M30	キマ M33	フミ M32	リキ M38	フク M35	チコ M39
ナミ M36	フジ M39	ヨシ M32	デヨ M31	むつゑ M38	サヨ M32	サヨ M38
タツ M37	トラ M38	シエ M33	アキ M36	サワ M32	サエ M31	ツタ M38
ミネ M39	マキ M44	チミ M45	ミヨ M42	サト M43	リヨ M44	リヨ M44
ハツ M44	サト M45	サト M45	タモ M41	シミ M45	ハツエ M45	タマ M42
チト M43	リヨ M44	フデ M43	スガ M44	チヨ M41	スミ M43	リシ M43
シキ M43	フキ M43	フジ M43	フエ M43	マキ M44	マサエ M44	シキ M43
ユク M40	カラ M41					

表15の1 上道徳（現戸）明治生れ女子名（13番地より825番地）

マシ 慶1	マサ 慶2	タケ M4	トキ M15	ツマ M26	フデ M27	マシ M29
ツサ M23	トサ M24	キツ M24	キツ M20	ノヨ M27	サト M29	チエ M20
アキ M29	ユミ M36	タネ M36	シモ M30	ツヨ M30	ファイ M30	シモ M30
セツ M32	キク M37	トク M36	ハツ M35	フデ M36	ミチ M32	ミツ M36
ツモ M42	シヅ M42	フデ M40	シマ M41	フデ M44	ユノ M45	チヨ M45
キク M45	エミ M45	クニ M44	ツヨ M42	キノ M41	シモ M42	

表15の2 上道徳における女子名。（上道徳6番地—87番地）

エワ	シヲ	ファイ	マサ慶2	エミ	マシ	トミ	コト	マサ
フミ	ハツエ	キサ	トミ	ツヨ	ミツ	キサ	マツ	キサ
キミエ	ミヨ	ツル	ナル	サノ	ノヨ	カヲル	イフ	ハナ
エノ	リツ	スエ子	トキ	エン	カネ	スミ	タヲ	ミト
トキ	シモ	アサ	マチ子	マシ慶1	タセ	ファイ	イソ	タネ
ナヲ	ヨシ子	タネ	マツノ	マシ				

表15の3 神浦江川郷（現戸籍より）江川郷明治生れ女子名  
（31番地より598番地まで）

シヲ	M18	マス	M20	ニワ	M18	ルイ	M13	ヨネ	M14	ユキ	M16	タイ	M8
フジ	M20	マツ	M25	ソモ	M26	ハル	M25	サナ	M27	キエ	M26	タモ	M23
チノ	M24	サタ	M25	ツイ	M24	ツヤ	M23	セキ	M26	ツモ	M29	トミ	M28
ニワ	M28	セツ	M24	ツマ	M26	スヨ	M27	ニワ	M30	カメ	M30	ニワ	M30
ミト	M30	ハル	M36	キメ	M38	ツヨ	M39	ワキ	M39	ヤス	M31	ニワ	M37
ケサ	M38	シミ	M33	フェノ	M33	ワカ	M30	チワ	M36	フジ	M39	ヨシノ	M37
マス	M39	キン	M38	イト	M37	ユノ	M32	スミ	M36	シカノ	M38	キワ	M33
カネ	M39	カノヨ	M37	セミ	M31	キノ	M36	スマ	M39	ミヨ	M30	キン	M36
イネ	M35	エシ	M31	エミ	M36	ヨシ	M38	キク	M39	ヨシ	M36	ハナ	M39
マシ	M33	キワ	M31	キマ	M35	ソワ	M42	テイ	M43	ソワ	M44	タキ	M42
ミサヲ	M43	トキ	M41	ニワ	M42	ミチ	M42	ツレ	M41	フジノ	M45	シモ	M40
しげ	M44	タカ	M45	トヨ	M44	イネ	M44	ユキ	M40	トク	M41	エミ	M44
スノ	M40	イチ	M43	ヤエ	M43	ファイ	M40	カカ	M44	チヨ	M44	キクノ	M41
ハル	M45	ヲエ	M41	キク	M43	シゲ	M45						

その一部の事例である。黒崎と檉山とは共通のものを多くもっている。

②意味をもつ、或は漢字化する二つのカナの結合が、非キリシタン・カトリック地域の方で多い。即ち、たけ、なみ、なか、ふじ、きくなどの如きである。キリシタン地域のものの方が「をせ」「えぢ」「えを」のような無意味結合、(また漢字化しえないもの)が多いことも事実である。

更に、細かに、分析していくと、種々の特徴がみられるが、ここでは、その若干の問題点だけにふれていく。女子の二字名前の先の字による整理と、後の字による整理の二つに分けて述べることにする。

表16の1 女子の二字名前の先の字による整理  
(黒 崎)

あ	1	2	あき(2)	は	2	4	はま，はつ(3)
い	6	9	いわ，いす，いろ，いえ，いち(2)，いそ(3)	ひ	1	1	ひろ
う	4	6	うみ，うら，うき(2)，うよ	ふ	6	12	ふち，ふり，ふい，ふで(2)，ふく(4)，ふみ(3)
え	5	5	えよ，えみ，えを，えも，えつ	へ			
お	5	7	おち，おせ，おえ，おちく，おも(3)	ほ			
か	5	6	かえ，かめ，かね，かや，かよ(2)	ま	4	12	まさ(2)，まし(2)，まき(2)まつ(6)
き	9	25	きた，きさ，きと(2)，きわ(5)，きよ(3)，きや(5)，きめ(3)，きの(3)，きみ(2)	み	10	17	みき，みな，みね，みか，みわみつえ，みつ(2)，みを(2)，みと(3)，みよ(4)
く	3	6	くら，くめ(2)，くま(3)	む	1	2	むら(2)
け				め			
こ	4	4	この，こえ，こめ，こや	も	3	4	もや，もい，もよ(2)
さ	10	14	さと，さも(2)，さの，さつのさつ(3)，さい，さき，さえ(2)，さゑ，さが	や			
し	8	14	しづえ，しか，しま，しげ(2)しも(3)，しお，しめ(3)，しよ(2)	ゐ			
す	6	12	すい，すみ，すが，すえ(2)，すな(2)，すよ(5)	ゆ	6	11	ゆき，ゆめ，ゆく(2)，ゆち，ゆわ(2)，ゆき(3)
せ	5	7	せを，せい，せわ，せよ(2)，せつ(2)	よ	4	7	よそ，よえ，よし(3)，よね(2)
そ	4	8	そな，そめ(2)，そね(2)，そい(3)	ら			
た	9	12	たま，たみ，たわ，たや，たをたき，たせ(2)，たも(2)，たつ(2)	り			
ち	4	6	ちえ，ちま，ちを，ちの(3)	ろ			
つ	6	7	つき，つね，つな，つま，つつや(2)	わ	2	4	わさ(2)，わか(2)
て	1	1	てよ	ゐ			
と	6	8	とわ，とく，とえ，とせ，とよ(2)，とら(2)	う			
な	2	2	なつ，なよ	ゑ			
に	1	1	にわ	を	2	2	をも，をせ
ぬ				じ	1	3	じわ
ね				ぢ	2	2	ぢえ，ぢや
の							



表16の2 女子の二字名前の先の字による整理  
( 檜 山 )

あ	1	1	あき	は	4	8	はつえ，はや(2)，はつ(2)，はる(3)
い	9	10	いと，いま，いな(2)，いさ，いつ，いね，いえ，いす，いの	ひ	2	3	ひさ(2)，ひろ
う	2	2	うき，うら	ふ	5	9	ふい(2)，ふみ，ふく(3)，ふの(2)，ふじの
え	4	7	えき(3)，えみ(2)，えち，えし	へ			
お				ほ			
か	5	5	かめ，かつ，かど，かる，かち	ま	3	6	ますよ，まつ(4)，まし
き	12	15	きや，きら，きく(2)，きみ(2)，きり，きま，きさ，きな，きわ，きつ，きと，きよ(2)	み	6	10	みし，みと(2)，みか，みち，みの(2)，みを(3)
く	3	3	くに，くの，くら	む	1	1	むつ
け				め			
こ	5	5	こま，こえ，こや，こちや，こまえ	も	2	2	もみ，もめ
さ	6	8	さい，さつ，さや，さだ子，さき(2)，さよ(2)	や	2	3	やつ(2)，やえ
し	10	12	しだ，しよ，しも，しげよ，しず，しげ，しめ，しの，しを(2)，しか(2)	い			
す	3	4	すま，すが(2)，すぎの	ゆ	3	3	ゆう，ゆい，ゆき
せ	1	1	せき	え			
そ	5	7	その，そめ，そい(2)，そも(2)，そし	よ	2	2	よし，よわ
た	4	4	たか，たね，たえ，たま	ら			
ち	1	1	ちの	り	2	2	りよ，りみ
つ	3	3	つる，つね，つや	る	1	1	るい
て	1	1	てい	れ			
と	5	8	とし，との，とく，とめ(2)，とい(3)	ろ			
な	2	2	なか，なを	わ			
に	1	1	にわ	ゐ			
ぬ				う			
ね				ゑ			
の	3	4	のし，のよ(2)，のぶ	を	1	3	をも(3)
				じ			

表16の3 女子の二字名前の先の字による整理

(三 重)

あ	2	3	あき，あさ(2)	は	2	4	はつえ，はつ(3)
い	4	6	いわ，いせ，いえ(2)，いし(2)	ひ	1	1	ひろ
う	1	1	歌子	ふ	7	10	ふじ(3)，ふみ，ふい，ふく，ふろ，ふき，ふで(2)
え				へ			
お				ほ			
か	4	4	かよ，かめ，かろ，かを	ま	4	6	まし，まさえ，まん，まき(3)
き	7	7	きえ，きい，きよ，きま，きのきや，きく	み	7	9	みち，みと，みす，みね，みきみわ(2)，みよ(2)
く				む	2	2	むつゑ，むめ
け	1	1	けい	め			
こ				も			
さ	5	9	さい，さゑ，さと(2)，さよ(3)，さわ(2)	や			
し	8	11	しば(2)，しめ(2)，しえ，しみ，しな，しか，しま，しき(2)	い			
す	2	4	すが(2)，すみ(2)	ゆ	1	2	ゆく(2)
せ	2	2	せき，せよ	え			
そ	3	3	そよ，そい，そめ	よ	3	8	よみ，よわ(3)，よし(4)
た	9	10	たみ，たい，たけ，たを，たも，たま，たき，たつ(2)，たし	ら			
ち	5	6	ちこ，ちみ，ちゑ，ちと，ちよ(2)	り	4	5	りよ(1)，りし(1)，りき，りを(2)
つ	3	3	つき，つた，つる	る	1	2	るゑ(2)
て	1	4	てよ(4)	れ			
と	4	6	とめ，とら，とよ(2)，とき(2)	ろ			
な	3	3	なか，なつ，なみ	わ			
に	1	1	にわ	み			
ぬ	1	1	ぬい	う			
ね				ゑ			
の				を	1	1	をも
				じ			
				ち	1	1	ちよ

表16の4 女子の二字名前の先の字による整理  
(江 川)

あ			ひ				
い	3	4	いと，いち，いね(2)	ふ	4	5	ふじ(2)，ふじの，ふゆの，ふい
う				へ			
え	1	3	えみ(3)	ほ			
お				ま	3	4	ます(2)，まつ，まし
か	4	4	かの上，かね，かめ，かが	み	4	4	みさを，みよ，みと，みち
き	8	10	きそ，きの，きえ，きま，きわ(2)，きめ，きく(2)，きくの	む			
く				め			
け	1	1	けさ	も			
こ	1	1	この	や	2	2	やえ，やす
さ	2	2	さな，さた	い			
し	5	7	しみ，しげ(2)，しも(2)，しを，しかの	ゆ	1	2	ゆき(2)
す	4	4	すみ，すの，すま，すよ	え			
せ	3	3	せき，せつ，せみ	よ	3	4	よし(2)，よね，よしの
そ	2	3	そも，そわ(2)	ら			
た	4	4	たか，たも，たい，たき	り			
ち	3	3	ちの，ちわ，ちよ	る	1	1	るい
つ	6	6	つま，つよ，つれ，つや，つも ついで	れ			
て	1	1	てい	ろ			
と	4	4	とき，とよ，とみ，とく	わ	2	2	わか，わき
な				る			
に	1	4	にわ(4)	う			
ぬ				ゑ			
ね				を	1	1	をえ
の				じ			
は	1	4	はる(4)	ち			

表16の5 女子の二字名前の先の字による整理  
(上 道 徳)

あ	2	2	あき，あさ	は	5	7	はる，はな，はつ子，はつ(2) はつえ(2)
い	2	2	いわ，いそ	ひ			
う				ふ	3	11	ふい(2)，ふみ(2)，ふで(7)
え	4	4	えみ，えわ，えん，えの	へ			
お				ほ			
か	3	3	かね，かを，かおる	ま	6	10	まさ(2)，まさこ，ます，まつ の，まし(3)，まつ(2)
き	6	10	きみ，きみえ，きさ，きの(2) きつ(2)，きく(3)	み	5	6	みち，みと，みよ，みね，みつ (2)
く	1	1	くに	む			
け				め			
こ	2	2	こみ，こと	も			
さ	4	5	さよ，さの，さち，さと(2)	や	2	2	八重子，やえ
し	4	8	しづ，しよ，しま(2)，しも (4)	い			
す	8	11	すえ(2)，すずや，すずか，す を，すよ，すえ子，すま，すみ (3)	ゆ	3	3	ゆの，ゆき，ゆみ
せ	1	1	せつ	え			
そ	2	2	そめ，その	よ	1	1	よみ子
た	5	6	たけ，たや，たを，たせ，たね	ら			
ち	2	2	ちえ，ちよ	り	1	1	りつ
つ	6	10	つや，つき，つる，つも(2)， つま(2)，つよ(3)	る			
て				れ	1	1	れい
と	7	10	とめ，とみ，とく，とえ，とめ の，とき(2)，とき(3)	ろ			
な	4	4	なる，なせ，なつ，なを	わ			
に	1	1	にわ	ゐ			
ぬ				う			
ね				ゑ	1	1	ゑみ
の	1	3	のよ(3)	を	1	1	をゑ
				じ	1	1	じよ

表17 女子の二字名前の先の字による整理  
先の字が「あ」「い」等である名の数

	黒崎	樫山	三重	江川	上道徳		黒崎	樫山	三重	江川	上道徳
あ	1	1	2		2	ひ	1	2	1		
い	6	9	4	3	2	ふ	6	5	7	4	3
う	4	2	1			へ					
え	5	4		1	4	ほ					
お	5					ま	4	3	4	3	6
か	5	5	4	4	3	み	10	6	7	4	5
き	9	12	7	8	6	む	1	1	2		
く	3	3			1	め					
け			1	1		も	3	2			
こ	4	5		1	6	や		2		2	2
さ	10	6	5	2	4	い					
し	8	10	8	5	4	ゆ	6	3	1	1	3
す	6	3	2	4	8	え					1
せ	5	1	2	3	1	よ	4	2	3	3	1
そ	4	5	3	2	2	ら					
た	9	4	9	4	5	り		2	4		1
ち	4	1	5	3	2	る		1	1	1	
つ	6	3	3	6	6	れ					1
て	1	1	1	1		ろ					
と	6	5	4	4	7	わ	2			2	
な	2	2	3		4	み					
に	1	1	1	1	1	う					
ぬ			1			ゑ					
ね						を	2	1	1	1	1
の		3			1	じ	1				1
は	2	4	2	1	5	ち	2		1		

表18 二字名前の先の字による整理

黒崎	檜山	三重	江川	上道徳	黒崎	檜山	三重	江川	上道徳
[い] い {ろえちそれす}	い {とまなまつねえすの}	い {わせえし}	い {とちね}	い {わそ}	[く] く {らめま}	く {にらの}			くに
					[さ] さ {とものつづの}	さ {いつやきよだ子}	さ {いゑとよわ}	さ {なに}	さ {よのちと}
[う] う {みらきよ}	う {きら}	歌子			[し] し {かまげもおめよづえ}	し {だよもげすげめのをかよ}	し {えみなかまきばめ}	し {みげもをかの}	し {づよまも}
[え] え {よみをもつ}	え {きみぢし}		えみ	え {みわんの}	[そ] そ {なめねい}	そ {のめいもし}	そ {よいめ}	そ {もわ}	そ {めの}
[ま] ま {たまとわよやめのみ}	ま {やらくみりまきなわつとよ}	ま {えいよまのやく}	ま {えまわめくくの}	ま {みみえのつく}	[も] も {やいよ}	も {みめ}			
[お] お {ちせえもちく}					[ゆ] ゆ {さめくすわまき}	ゆ {ういき}	ゆく	ゆき	ゆ {のみみ}
[を] を {もせ}	をも	をも	をえ	をえ	[じ] じ {わ}				じよ
					[ち] ち {えや}		ちよ		

(4)女子の二字名前の先の字による整理結果の若干について

表16の1が女子の二字名前の先の字による整理の黒崎の姿である。表16の1の内容を説明する。先の字が「あ」のものは、黒崎では、先の表12のsample中で「あき」のみである。あき(2)とあるのは「あき」が二ケースみられたことを意味する。「い」については、「いろ」「いえ」「いち」「いそ」「いわ」「いす」の六種がみられ、「いち」は2ケース、「いそ」は3ケースがみられたことを示している。そこで先の字が「い」のものtotalは表7の1では9である。各表はこのような姿を示している。

表16の2が同じくキリシタン・カトリック地域である三重村樫山の在り方を、表16の3は三重村三重郷の姿を、表16の4は神浦の江川郷の姿を、表16の5が神浦の上道德の姿を示している。

表17はこれらと比較する為に構成されている。表17を資料として、黒崎、樫山のキリシタン・カトリック文化地域のものと、三重、江川、上道德の非キリシタン・カトリック地域の異なりを捉えていく。すると女子の二字名前の先の字が「い」「う」「え」「お」「き」「く」「さ」「し」「そ」「な」「も」「ゆ」のものに、数的な面での異りが、比較的是っきりした形でみられる。表18が各地域での女子名の在り方を比較してみたものである。黒崎に、うみ、うら、うき、うよがみられ、樫山に、うき、うらがみられる。非キリシタン・カトリック三地域では、「う」が二字名前の先の字に来るものは、三重に歌子という全く異質の外来名がみられるだけである。黒崎に、くら、くめ、くまが、樫山に、くに、くら、くのがみられるのに、非キリシタン・カトリック系三地域では上道德に、くに、がみられるだけである。「も」の場合も、黒崎に、もや、もい、もよ、樫山にもみ、もめがみられる。非キリシタン・カトリック地域では、二字名前の先の字に「も」が来るものはない。このようなことは「お」「を」の場合にも、「じ」「ぢ」の場合にも同様である。更に「さ」「し」「そ」「ゆ」「い」「き」などが二字名前の先の字に来るものでも、キリシタン・カトリック地域では、その

表19の1 女子の二字名前後の字による整理

(黒 崎)

あ			の	5	9	この、きの、さつの、ちの(3)	
い	6	8	すい、せい、さい、ふい、もい そい(3)	は			
う				ひ			
え	11	13	ちえ、こえ、よえ、かえ、いえ とえ、ぢえ、みつえ、しづえ、 さえ(2)、すえ(2)	ふ			
お	2	3	みお(2)、しお	へ			
か	3	4	みか、しか、わか(2)	ほ			
が	2	2	さが、すが	ま	6	8	ちま、つま、はま、しま、たま くま(3)
き	7	12	なき、みき、たき、あき(2)、 まき(2)、うき(2)、ゆき(3)	み	6	9	たみ、すみ、えみ、うみ、きみ (2)、ふみ(3)
ぎ	1	1	つき	む			
く	4	8	とく、おちく、ふく(4)、ゆく (2)	め	7	13	きめ(3)、かめ、こめ、ゆめ、 そめ(2)、くめ(2)、しめ(3)
け				も	6	12	をも、たも(2)、えも、さも (2)、おも(3)、しも(3)
げ	1	2	しげ(2)	や	7	12	こや、たや、かや、もや、ぢや つや(2)、きや(5)
こ				い			
さ	4	6	ゆさ、ひさ、わさ(2)、まさ (2)	ゆ			
し	2	5	まし(2)、よし(3)	え			
す	2	3	いす、ゆす(2)	よ	13	27	もよ(2)、うよ(2)、とよ(2) かよ(2)、すよ(2)、きよ(3) みよ、なよ、えよ、てよ、みよ (3)、せよ(2)、しよ(2)
せ	4	5	とせ、おせ、をせ、たせ(2)	ら	4	6	うら、くら、とら(2)、むら(2)
そ	2	4	よそ、いそ(3)	り	1	1	ふり
た	1	1	きた	る			
ち	3	4	ふち、おち、いち(2)	れ			
つ	9	21	はつ(3)、さつ(3)、まつ(6) つつ、なつ、えつ、みつ(2)、 たつ(2)、せつ(2)	ろ	2	2	いろ、ひろ
て				わ	9	16	じわ(3)、きわ(5)、たわ、い わ、せわ、みわ、にわ、とわ、 ゆわ(2)
で	1	2	ふで(2)	ゐ			
と	3	6	さと、きと(2)、みと(3)	う			
な	4	5	みな、つな、すな(2)、そな	ゑ	2	2	きゑ、おゑ
に				を	4	4	ちを、たを、せを、えを
ぬ				じ			
ね	5	7	つね、かね、みね、よね(2)、 そね(2)	ぢ			



表19の2 女子の二字名前の後の字による整理  
( 櫻 山 )

あ				の	10	12	ふじの，としの，すぎの，いのちの，しの，その，くの，みの(2)，ふの(2)
い	7	11	とい(3)，てい，ゆい，さい，るい，ふい(2)，そい(2)	は			
う	1	1	ゆう	ひ			
え	5	5	やえ，たえ，こえ，いえ，はつえ	ふ			
お				ぶ	1	1	のぶ
か	4	5	みか，たか，なか，しか(2)	へ	1	1	こまへ
が	1	2	すが(2)	ほ			
き	6	9	あき，えき(3)，うき，せき，ゆき，さき(2)	ま	5	5	こま，いま，きま，たま，すま
く	3	6	とく，さく(2)，ふく(3)	み	5	7	りみ，ふみ，もみ，きみ(2)，えみ(2)
け				む			
げ	1	1	しげ	め	5	6	そめ，かめ，しめ，もめ，とめ(2)
こ	1	1	さだ子	も	3	6	しも，をも(3)，そも(2)
さ	3	4	きさ，いさ，ひさ(2)	や	6	7	きや，さや，こや，つや，こちや，はや(2)
し	7	7	のし，えし，とし，そし，ましきし，よし	い			
す	1	1	いす	ゆ			
ず	1	1	しず	え			
せ				よ	7	10	きよ(2)，しよ，りよ，しげよまちよ，のよ(2)，きよ(2)
そ				ら	3	3	くら，きら，くら
た	1	1	しだ	り	1	1	きり
だ	2	2	みち，かち	る	3	4	かる，つる，はる(2)
ち	1	1	えち	れ			
ち	1	1	えち	ろ	1	1	ひろ
つ	8	13	〇〇(2)，まつ(4)，かつ，きつ，いつ，むつ，さつ，やつ(2)	わ	3	3	よわ，みわ，きわ
て				い			
と	3	4	みと(2)，いと，きと	う			
ど	1	1	かど	ゑ			
な	2	3	きな，いな(2)	を	3	6	なお，しを(2)，みを(3)
に	1	1	くに				
ぬ							
ね	3	3	つね，たね，いね				

表19の3 女子の二字名前の後の字による整理

(三 重)

あ			ね	1	1	みね
い	7	7	の	1	1	きの
う			は			
え	2	2	ば	1	2	しば(2)
お			ひ			
か	2	2	ふ			
が	1	2	へ			
き	10	13	ほ			
く	3	4	ま	3	3	しま，たま，きま
け	1	1	み	7	8	すみ(2)，ちみ，しみ，たみ， よみ，なみ，ふみ
こ	2	2	む	5	6	そめ，むめ，かめ，とめ，しめ (2)
さ	1	2	も	2	2	をも，たも
し	5	9	や	1	1	きや
じ	1	3	い			
す	1	1	ゆ			
せ	1	1	え	8	10	いえ(2)，るえ(2)，ふえ，さ え，ちえ，むつえ，きえ，ま え
そ			よ	11	19	みよ(2)，てよ(4)，とよ(2) ちよ(2)，そよ，せよ，きよ， かよ，りよ，ちよ，さよ(3)
た	1	1	ら	1	1	とら
ち	1	1	り			
つ	3	5	る	1	1	つる
て			れ			
で	2	3	ろ	2	2	かろ，ひろ
と	3	4	わ	5	9	にわ，いわ，みわ(2)，よわ (3)，さわ(2)
な	1	1	る			
に			う			
ぬ			を	3	4	かを，たを，りを(2)
			ん	1	1	まん

表19の4 女子の二字名前の後の字による整理  
(江 川)

あ				の	9	9	ふゆの，しかの，ひくの，この
い	5	5	つい，ふい，るい，たい，てい	は			きの，ちの，すの，よしの，ふ
う				ひ			じの
え	3	3	をえ，やえ，きえ	ふ			
お				へ			
か	2	2	わか，たか	ほ			
が	1	1	かが	ま	3	3	つま，きま，すま
き	5	6	たき，せき，れき，とき，ゆき (2)	み	5	7	しみ，すみ，せみ，とみ，えみ (3)
ぎ				む			
く	2	3	とく，きく(2)	め	2	2	かめ，きめ
け				も	4	5	しも(2)，たも，そも，つも
げ	1	2	しげ	や	1	1	つや
こ				い			
さ	1	1	けさ	ゆ			
し	2	3	まし，よし(2)	え			
す	2	3	やす，ます(2)	よ	6	6	つよ，ちよ，みよ，かのよ，と
せ				ら			よ，すよ
そ	1	1	きそ	り	1	3	
た	1	1	きた	る	1	1	はる(3)
ち	2	2	みち，いち	れ			つれ
つ	2	2	せつ，まつ	ろ	4	9	ちわ，にわ(4)，そわ(2)，ま
て				わ			わ(2)
と	2	2	いと，みと	み			
な	2	2	さな，はな	う			
に				ゑ	2	2	しを，みさを
ぬ				を	1	2	ふじ(2)
ね	3	4	いね(2)，かね，よね	じ			
				ち			

表19の5 女子の二字名前の後の字による整理  
(上 道 徳)

あ			の	7	8	えの，ゆの，とめの，その，まつの，きの(2)
い	2	3	はい			
う			ひ			
え	5	6	ふ			
お			へ			
か	1	1	ほ			
き	3	5	ま	3	5	すま，つま(2)，しま(2)
く	2	4	み	7	11	とみ，すみ(3)，ふみ(2)，こみ，ひみ，ゆみ，えみ(2)
け	1	1	む			
こ	5	5	め	2	2	とめ，そめ
さ	5	7	も	2	6	つも(2)，しも(4)
し	1	3	や	3	3	たや，つや，すずや
す	1	1	い			
せ	2	2	ゆ			
そ	1	1	え			
た			よ	7	11	つよ(3)，みよ，すよ，さよ，じよ，ちよ，のよ(3)
ち	2	2	ら			
つ	7	11	り			
づ	1	1	る	4	4	かおる，はる，つる，なる
て			れ			
で	1	7	ろ			
と	3	4	わ	3	3	いわ，えわ，にわ
な	1	1	る			
に	1	1	う			
ぬ			ゑ	3	3	すゑ，をゑ，きみゑ
ね	3	4	を	5	5	なを，すを，かを，しを，たを
			ん	1	1	えん

表20 女子の二字名前の後の字による整理  
後の字が「あ」「い」等である名の数

	黒崎	樫山	三重	江川	上道徳		黒崎	樫山	三重	江川	上道徳
あ						ぬ					
い	6	7	7	5	2	ね	5	3	1	3	3
う		1				の	5	10	1	9	7
え	11	5		3	5	は					
お	2					ば			1		
か	3	4	2	2	1	ひ					
が	2	1	1	1		ふ					
ま	7	6	10	5	3	ぶ		1			
ぎ	1					へ		1			
く	4	3	3	2	2	ほ					
け			1		1	ま	6	5	3	3	3
げ	1	1		1		み	6	5	7	5	7
こ		1	2		5	む					
さ	4	3	1	1	5	め	7	5	5	2	2
し	2	7	5	2	1	も	6	3	2	4	2
じ			1			や	7	6	1	1	3
す	2	1	1	2	1	い					
ず		1				ゆ					
せ	4		1		2	ゑ					
そ	2			1	1	よ	13	7	11	6	7
た	1		1			ら	4	3	1		
だ		1				り	1	1			
ち	3	2	1	2	2	る		3	1	1	4
ち		1				れ				1	
つ	9	8	3	2	7	ろ	2	1	2		
づ					1	わ	9	3	5	4	3
て	1		1		1	る					
と	3	3	3	2	3	う					
と		1				ゑ	2		8		3
ど		1				を	4	3	3	2	5
な	4	2	1	2	1	ん			1		1
に		1			1	じ				1	

種類が多く，非キリシタン・カトリック地域で少い。

この在り方全体を通して，黒崎，檜山の強い類似性がみられ，キリシタン・カトリック系文化地域と非キリシタン・カトリック系地域との異なりがみられる。なお，非キリシタン地域の中では，三重本村は，黒崎，檜山に比較的近い。また以上の二字名前の先の字による整理場面での観察でも，この<sup>註9</sup>黒崎，檜山，キリシタン・カトリック地域の名は，吾々の耳なれぬものが多く，無意味結合の形を示しているものが多い。

(ウ)女子の二字名前の後の字による整理結果について

表19の1が黒崎地域に，表19の2が檜山，表19の3が三重，表19の4が江川，表19の5が上道徳に關係する。表20がこれらの結果の数的な形での比較表である。

表20にみられる一つの特徴点として黒崎，檜山のキリシタン・カトリック系地域のものは，三重，江川，上道徳の非キリシタン・カトリック地域のものよりも，最後がア列の母音に終るものが多いことがみられる。この姿を次に観察していく。

先づ数的にみていくならば，

	あ	か，が	さ	た，だ	な	は，ば	ま	や	ら	わ	total
黒崎		5	4	1	4		6	7	4	9	40
檜山		5	3	1	2		5	6	3	3	28
三重		3	1	1	1	1	3	1	1	5	17
江川		3	1	0	2		3	1	0	4	14
上道徳		1	5	0	1		3	3	0	3	16

以上の如く，ア列母音が最後に来るものの姿は，三重，江川，上道徳の非キリシタン・カトリック地域で17，14，16と大体類似した姿を示している。これに対して，キリシタン・カトリック地域である黒崎，檜山では40，28と多い。この多さは，ここの女子名の一つの特徴と考えられる。

次に各語毎の在り方について観察を進めていく。

	〔カ〕〔ガ〕	〔サ〕	〔タ〕〔ダ〕	〔ナ〕	〔マ〕	〔ヤ〕	〔ラ〕	〔ワ〕
黒崎	みし わか さす	まゆ ひわ	きた	みつ すき	ちつ はしたく	こた かも ちつき	うく とむ	たい せみに とゆ じき
榎山	みた な すが	きい ひ	しだ	きい	とい きたす	ま ま な こ つ は こ ち	く ま う	よ き み
三重	なし か すが	あさ	つた	しな	した ま き	ま き や	とら	にい み よ さ
江川	わた か かが	けさ	さた	さは	つ ま す	つ や		ち に そ き
上道徳	すずか	つ あ き と ま		はな	す つ し	た つ す ず		い え に

二字名前の後の字に「か」のくるもの、「か」に終る二字名前について、黒崎と榎山だけが「みか」を共有し、「ら」についても、この二者だけが「くら」「うら」を共有している。前表の諸事例にもみられるように、黒崎と榎山の女子名には強い類似性が観察され、ア列母音に終る名前がキリシタン・カトリック文化地域により多い姿がみられる。

キリシタン・カトリック文化地域に、このようなア列母音に終る名前の多いことが、何故かについては十分に明かではない。ラテン系の言葉の女性名の語尾がア列母音に終るものの多いことは事実であるが、この両者の関係を明確にあとづけることは、現在<sup>註10</sup>は、むづかしい。

しかし、このキリシタン・カトリック地域の女子名が二字名前の前の字、後の字に関して、一つの pattern をもっているということはいいうることである。

ところで、このような女子俗名の pattern はカトリシズムとどのような関係になるか。これも、宗教文化 complex の部分を構成していることは事実である。しかしこれは先に述べたアリマの名、ベアトが強く宗教的なものの中心に関係しているのとは異なる。宗教的なものに直接に関係してはいない。しかし、これは全体的宗教文化 complex の部分として、その色合いを帯びているものである。そして、これには宗教的意味づけ、解釈は与えられていない。なお、他の諸キリシタン・カトリック系地域の在り方については検討を進めているところである。

次に、このような pattern の存在することの意味について考えてみる。

①この事実は、先づ第一にこの文化が周辺文化と自らを限って来たことを示している。それが内からの力によってであれ、外からの力によってであれ、限られて来たこと、文化の Isolation の度合の高いことを示している。

②この姿は、宗教文化のもつ全体性、包括性、及び、その文化の中のもの維持する傾向を示している。それは一つの全体的かたまりとしての性格をもち、その文化要素の維持の方向に働いていることを示している。宗教文化の統合度の強さの一面を示している。

この戸籍を通して観察された。子供数の多さ、宗教内婚などの諸特徴は、この宗教文化 complex の姿を強く色づけ、決定している因子である。そして、これらの諸特徴はこの文化の他の諸特徴とも強く関連し、支え合っている。この子供数の多さや宗教内婚の在り方は、先の土地所有の姿とも関連し、また大きくは、この宗教集団そのものの持続と維持を支える中心的力として働いているものでもある。なお名前のもつ方向性は、その文化統合が Sorokin の意味的統合の方向に関係していると考えている。



以上の二つの問題点，黒崎に於ける土地所有と戸籍の姿の観察を通して，社会的文化的事実としての宗教現象の観察，分析に際して，宗教文化 complex を克明に取り扱い，ほどいていくことの必要であること，及び，宗教的統合が，inner なるものがより優位な文化的社会的統合の方向のもので，Sorokin の logico-meaningful integration の方向の特徴を含むものであるとの方向を考えることの必要への一資料を加えたかと思う。

なお，本研究はキリシタン・カトリック村落黒崎の文化に関する総合的整体的研究の一部分であることを重ねて附記したい。これにつづく研究の仮説となるものである。

- 註1 1, 2, 17; 3, 21; の如き表現は，1反2畝17歩，2畝27歩を意味する。
- 註2 普通，山の台壁面積は実測より極度に小さい。平地から遠ければ，遠い程その異なりは大きい。税金との関係である。しかしこの檜山の場合は平地の真中にあるので，この異なりは殆んどない。
- 註3 牧野，上黒崎諸地域の小字名は図1を参照されたい。
- 註4 むつかしいとはいえ，田では米がつくられて来た。そしてセンター下のごく小さな一小部屋程の田が三人の所有者に分たれている。
- 註5 哲学年報26輯，27輯，「集団カトリック研究の一資料」「黒崎地域のキリシタン・カトリックの研究」
- 註6 キリシタンの組の規約などにも慈悲物を共に出し合って，たすけ合う姿がえがかれている。
- 註7 哲学年報26輯，27輯。
- 註8 このことはルターの場合でも同様である。
- 註9 明治6年旧黒崎村は三重村より分村す。
- 註10 マリヤ，マダレナ，ガラシヤなどのアリマの名の影響は考えられうところである。
- 註 佐賀領，即ち旧深堀領内の土地所有の細分化と分散の度合は，大村領のものよりより強いようである。